

平成 25 年度第 1 回千葉市図書館協議会議事録

1 日 時 平成 25 年 7 月 23 日(火) 14 時 00 分～16 時 45 分

2 場 所 千葉市消費生活センター 3 階 研修講義室

3 出席者

(1)委員

齊藤誠一 委員長、杉田茂樹 副委員長、
小野和美 委員、山田至 委員、井上真理 委員、十倉典子 委員、
能勢仁 委員、高梨綾子 委員、溝添周二 委員

(2)事務局

橋中央図書館長、森川みやこ図書館長、渡辺花見川図書館長、幸島稲毛図書館長、土橋若葉図書館長、古館緑図書館長、中田美浜図書館長、布施中央図書館管理課長、石井中央図書館情報資料課長、元好中央図書館管理課担当課長、布川中央図書館管理課企画運営係長、積田中央図書館管理課主任主事、細野中央図書館管理課主事

(3)傍聴人

11 人

4 議 事

- (1) 副委員長の選出について
- (2) 平成 24 年度 千葉市図書館の評価について
- (3) 平成 25 年度 千葉市図書館のサービス取組項目及び評価指標について

5 議事の概要

- (1) 副委員長の選出について〔委員の互選〕
→ 杉田委員が副委員長に選出された
- (2) 平成 24 年度 千葉市図書館の評価について
ア 取組結果及び内部評価について〔事務局より説明〕
イ 外部評価について〔外部評価部会長(委員長)より説明〕
ウ ア・イについての質疑応答・協議
→原案どおり承認された
- (3) 平成 25 年度 千葉市図書館のサービス取組項目及び評価指標について
〔事務局説明及び質疑応答〕
→原案どおり承認された
- (4) その他
 - ・開館日・開館時間の拡大について〔事務局より報告〕
 - ・郷土資料のデジタル化について〔事務局より報告〕
 - ・公民館図書室の運営について〔出席委員からの提議〕

6 会議経過

<開 会>

- 新たに就任された委員の紹介
- 中央図書館館長あいさつ〔事務局職員紹介〕
- 定足数の確認(図書館協議会委員 9 名の出席をもって成立)

○会議の公開についての説明

○委員長あいさつ

<議 事>

(1) 副委員長の選出について

委員長　それでは協議に入らせていただきます。次第に沿って進めてまいります。まず、議事(1)副委員長の選出についてですが、まずお手元に配付されている委員名簿をご覧ください。前任の副委員長には色々とアドバイス等をいただいていたところでしたが、離任ということでこの委員会を離れております。

改めて千葉市図書館管理規則第24条の規定に則り、副委員長の互選をしたいと思っております。どなたかご意見、立候補を含めてございませんでしょうか。

委員　前副委員長の後任でもありますし、また専門職として千葉大学附属図書館にご奉職されているということですので、杉田さんをお願いしてはどうかと思いますが、いかがでしょうか。

委員長　今、杉田委員をとということでご意見がありました。他の方はいかがでしょうか。杉田委員、よろしいですか。

各委員　《拍手》

委員長　それでは、よろしく申し上げます。副委員長席に移っていただいて、ご挨拶をいただきたいと思っております。

副委員長　新任で大変僭越ですが、お役にたてるよう努めて参りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

委員長　ありがとうございます、よろしく申し上げます。

(2) 平成24年度 千葉市図書館の評価について

委員長　それでは続きまして、議事(2)平成24年度千葉市図書館の評価に移りたいと思っております。内部評価につきましては事務局の方からご説明いただき、外部評価につきましては、部会長である私の方からお話をさせていただきたいと思います。

それでは、事務局から取組結果及び内部評価について、ご報告をお願いします。

事務局　お配りしました【資料1】について、説明いたします。

まず、今回の平成24年度千葉市図書館の評価案の作成の経緯から、説明させていただきます。

年度明けの4月に入ってから、平成24年度の千葉市図書館の運営概要をまとめあげる作業に入りまして、まとまった事業実績を基に、中央図書館と各地区図書館職員による内部評価の作業を6月に実施しました。

その後、7月5日に中央図書館で外部評価部会を開催し、部会員3名様のご協力により、取組結果と内部評価、及び外部評価の案を作成しました。

その結果が【資料 1】にお示ししたとおりです。

続きまして、資料の説明に入ります。表紙の二重線の枠内の、評価の説明についてご覧ください。A・B・C の評価区分について説明があります。この記載のとおり、計画通りに実施できたものを A、概ね計画通り実施できたものは B、計画通りに実施できなかったものは C、という基準で区分し、評価しております。特に B 評価の場合は、先ほど申し上げた「取組結果」について曖昧さを排除するため、極力その課題が明確になるような記載に留意しております。

2 枚目、【方針 1】の「取組結果」の欄をご覧ください。評価につきまして、先ほどの A・B・C のランクとその取組結果を、わかりやすく読みやすいよう、箇条書きにしております。

評価の内容につきましては、項目数が 80 以上に及んでおり、時間も限られていることから、個別の項目のご説明は、控えさせていただきます。

事務局からの説明は以上です。

委員長 ありがとうございます。委員の皆様方にも、事前に資料は事務局より送られていたかと思えます。それぞれの具体的な取組結果については個々の説明はありませんでしたが、これらに関しては後でご意見をいただきたいと思えます。

それでは、引き続き外部評価につきましても私の方から説明して、それから皆様のご意見をお聞きしたいと思えます。

先ほど、事務局よりお話がありましたように、内部評価案を事前にいただいて、それを基に 7 月 5 日開催の外部評価部会において、部会員 3 名で各項目について 1 つずつ取組結果の確認及び評価を行って参りました。

改めてお話ししますが、作業を通して、図書館で良くやっている部分もしっかり見えましたし、課題であるところも出てきました。それにつきましては、外部評価の最後「総合評価」のところでお話ししたいと思えますが、その前に、個々の項目のところで、外部評価が内部評価と違いが出た所だけ簡単に見ていきたいと思えます。

まず、【方針 1】の(1)“オ”のところにつきまして、内部評価の“B”に対し、外部評価は“A”を付けております。

図書館は、様々な対応を適宜行っていると思えますし、書架の案内や展示についても工夫されている点が見られると思えます。

それから、利用者のマナーについては、利用者の問題でもあると思えますし、図書館の啓発活動はしっかり行われているということで、“A”評価に上げております。ただ、そのような啓発活動は、引き続き対応願いたいと思えます。

それから、3 ページ(1) “コ”につきましては、毎回協議会で大変話題になっている所です。図書館として、公民館図書室のバックアップをきちんとし

ていると言いたいのは重々理解しているのですが、やはり市民から見れば同じ図書館と思って利用していますから、もう少し公民館図書室の充実及び規程の整備なども含め、踏み込んだ対応を考えていただきたい、というところで、“C”評価とさせていただきます。

5 ページ、【方針 2】(1)“イ”について、確かにパスファインダー等は作られているのですが、まだまだ不十分といった感じに見られます。もっと充実させてもらいたい、というところで“B”評価を付けております。

それから“エ”のところですが、やはり図書館としては色々なことをされているのは分かるのですが、PR をもっと積極的に行って多くの人に知ってもらう機会を作る必要がある、ということで“C”評価に下げしております。

すぐ下の“オ”ですが、研修体制についても図書館として様々な実施項目があるのですが、より実践的なレファレンスなどの研修を行って頂きたいとの思いも込めて、“B”評価とさせていただきます。

6 ページ(2)“ウ”ですが、仕事絡みの情報サービスを充実させていただいているのは個人的に評価したいところですが、やはりビジネス支援というのはコーナーを作れば終わり、というのではなく、職員がいかに関わるのかというのが大変重要になります。より職員が積極的に関わっていくことの期待を込めて、“B”評価としております。

9 ページの【方針 3】(1)“ア”についてですが、ホームページの充実及びデザインの見直しについては評価しているところですが、もっと出来ることがあると思います。当然ながら、ホームページにアクセスする人は増えてきておりますので、より充実させ、多くの人に見て頂けるホームページになるよう期待を込めて、“B”評価にしております。

続きましての【方針 4】「子どもの読書活動の推進」については、色々な取組が行われていて、我々も評価をしており、“A”評価が多い方針でもあります。

その中で(1)“ア”については、そもそもの現状として、貸出冊数が減少しているという現状があります。分析等含め、回復させるための対策を推進していただきたいという期待もありますし、ブックリストについては、新たな更新をお願いしたいとの願いも込めて、“B”評価としております。

13 ページの(1)“ケ”ですが、色々な学校に出向いて講座等を実施されておりますが、まだ一部の学校に対してのメニューになっていると思われまます。千葉市の場合、地域が広く、学校数も多いので大変かと思いますが、より多くの学校に広めていただきたいとの思いも込めて、“B”評価にしております。

それから(2)“ク”の、地域おはなしボランティアの派遣については、大変活発に行われており、地域の要望にもきちんと応えていると思われまますので、これについては“A”評価といたしました。

16 ページの【方針 5】(1)“イ”のレファレンス協同データベースについて

は、現在も登録事例を随時増やされているかと思いますが、まだ入力件数が少ないと思います。協同データベースに市民の方からの様々なレファレンス事例が掲載されることにより、全国的にも千葉市のレファレンス事例が広まることになるかと思いますが、より件数を増やしていただきたいという思いも込めて、“B”評価としております。

17 ページ(2)“エ”の、他の施設との連携については、現在策定に向けた作業をされている『読書環境整備計画(仮称)』の中で検討されているということですが、より具体的な連携協力というものを図ってほしい、位置付けだけでなく一歩踏み込んだ取組みをしていただきたいということから、“B”評価としております。

続いて 20 ページの【方針 6】(2)“オ”のアンケート調査です。内部評価は満足度が下がったことから“C”となっておりますが、調査の実施により、利用者の動向をきちんと把握され、サービスに生かされていると思います。満足度が下がったということではありますが、きちんと調べた結果を調査し、それを今後に活かしていくのは非常に重要な事だと思いますので、“B”評価に上げております。

それから 22 ページ【サービス推進のための経営資源について】の“ウ”では、寄付金や募金、選定会議の実施等による資料整備が挙げられています。それらもちろん大事ですが、やはり資料費というのは図書館の生命線であると思いますので、自主財源による予算をしっかりと確保していただくことが最低限必要であるとの思いから、“B”評価といたしました。

最後に 25 ページの総合評価についてですが、まずは、中央図書館に限らず地区図書館についても、非常に前向きにサービス展開をしていると思います。各館の館長及び職員の努力は評価したいと思います。

協議会も、今回から公募委員を 2 名に増やされ、市民の意見をしっかりと聞いていこうとする姿勢は評価できます。それから、フェイスブックやビジネス支援、この後に紹介いただける郷土資料のデジタル化などの事業展開についても、評価をしております。

千葉市は大変大きな市域を持っておりますので、市域全体での読書環境の整備というのは大変重要になってくるかと思いますが、それに着手しているということに関しても良いことだと思いますし、是非とも良い計画にしていきたいと思います。

この後、課題についての説明もありますが、まずは努力されてきた図書館職員の方々に感謝をしたいと思います。

別途、いくつか課題も挙げさせていただきました。

1 つ目は、一般も児童も貸出冊数が減少しているという現状です。基本、貸出冊数で単純に図書館を評価することはできないと思っておりますが、貸出数が減少している理由は何なのかということについての分析は、何にせよ

必要だと思います。

それから、寄贈や寄付金に頼ることも必要かと思いますが、やはり自主財源としての資料費の確保が基本だと思いますので、まずはその財源の確保ということを目指します。

それと中央図書館についてですが、このアキレス腱というのが ICT への対応だと思います。インターネットの閲覧端末や、有料データベースの導入といった、ICT 化に向けた対応を目指します。

それから、課題解決に向けたサービスの展開、特に人的支援をより充実させていただく必要があると思います。

あと、毎回協議会で取り上げられております、図書館の未利用者に対する PR の展開、潜在的な利用者を顕在化する努力をしていただきたい。それと、市民との協働による事業というものにも取り組んでいただきたいと思います。

それから、司書資格を持つ専門的な見識を持った職員が、多数定年を迎えられているといった現状については懸念されます。千葉市に限らずどこもそうですが、やはり人事は最大の課題かと思われまますので、専門職の採用を含めた人材確保について、積極的に対応していただきたいと思います。

最後に、公民館が指定管理になるという検討が進んでいると聞いておりますが、公民館図書室については市民の方もよく利用されており、今後について大変期待している所でもあります。今後、公民館図書室をどう運営していくのか、図書館としてもきちんと検討していく必要があるといった指摘をさせていただきました。

非常に簡単に説明しましたが、お手元に配られた評価を見ていただいて、ご質問・ご意見等ありましたら、お願いいたします。

委員

よろしいでしょうか。まずは評価に携われた方々に対してですが、83 項目に渡る評価作業を行っていただき、ありがとうございます。これは本当に大変な作業で、素晴らしい成果だと思います。

私も全項目を見させていただきました。ただ今、委員長から内部と外部の評価が違っているところのお話をいただきましたが、他に注目すべき項目として、内部・外部とも“C”評価というのがあると思います。

全部で 9 項目あり、その内訳が、1 つの方針に集中しています。それが【方針 2】のところ、図書館の大事なところであるレファレンスサービスのところです。

まず、5 ページの(1)“ウ”の事例集ですが、結果的に進んでいないということだと思います。

それから 6 ページの(2)“カ”、高齢者施設への貸出サービスです。様々な課題があるかと思われまます、これから高齢者の人口がどんどん増えていくことを考えると、真剣に取り組んでいく必要があるかと思ひます。

それから 7 ページ(2) “ク”の図書館・公民館以外での図書資料の受け渡しと、“ケ”の開館日等の見直しです。これらは以前から取り上げられている課題でもありますし、利用者からも苦情をいただく点かと思われま

す。レファレンスサービスは図書館が利用者と直接接することのできる、メインのサービスかと思えます。それが 4 つも“C”評価があるのは、少し問題ではないかと感じました。

これらについて質問という訳ではないのですが、図書館としてどういう現状認識をされているのか、どういう方向性を考えられているのか伺いたいと思います。

事務局 ご意見ありがとうございます。まず、ホームページに掲載するレファレンス事例集につきましては、5 ページ(1) “ウ”の取組結果に〔平成 25 年度中に掲載予定〕とありますが、まだ件数は多くないものの、掲載を始めております。今後時間をかけて充実させていきたいと思

います。また、高齢者施設に対するサービスですが、これは委員からお話がありましたように、非常に難しい問題を抱えております。実際には、1~2 件ほど高齢者施設への貸出事例はあるのですが、それらで生じた課題について整理し、どうすればスムーズに施設への貸出しを実施できるのか、時間をかけて検証していく必要があると思っています。

図書館・公民館以外での図書資料の受け渡しにつきましては、内部評価の項目への記載通り、今年度、『読書環境整備計画(仮称)』の策定を進めておりまして、その中で人の集まる駅などへの返却ポストの設置を検討しており、早期に実施したいと思

います。また、図書館以外の施設との連携についても、検討を進めて参ります。それから、開館日等の見直しについては、本日の会議の最後に報告させていただきますが、図書館サービスの拡充のために、財政状況の苦しい中、お金をかけずに何が

できるのかを全館体制で検討を行った結果、年始の終日休館になっていた 1 月 4 日を、半日開館することとしました。それから、蔵書点検について、正味 7 日間行っていた点検期間を 5 日に短縮し、なおかつ、毎年行っていたものを隔年に変更し、開館日を増やして

いくことを、今年度より試行的に実施して参ります。こちらは改めて説明させていただきます。

委員長 ありがとうございます。事例集の件については既に着手されているということです。地域に応じた調べ方案内というのは非常に重要だと思いますので、今後の動きに期待したいと思います。

あと、高齢者施設への資料貸出については、受入れ側とのミスマッチがどうしても出てきますので、難しい部分があるのでしょうけれども、今後の高齢化社会への対応のためにも、一つ一つ問題を解決し、実施していく必要があると思

なっております。

それから、7 ページ(2)“ク”・“ケ”については、事務局よりお話があったように整備計画を進めていく中で対応願いたいと思います。24 年度中は進んでいないため、“C”評価となっております。よろしいでしょうか。

委員 結構です。あと、【方針 5】「他の図書館や関係機関と連携・協力します」については“C”評価が 1 つもなく、少し甘いかな、という気はしております。

評価の中で具体的な基準が見えづらいため、実際には“B-(マイナス)”とか、そんな評価なのかも知れませんが。

委員長 現在示している外部評価は部会案ですので、変えていく必要があれば、この場で変えることは可能です。

委員 私も、委員になって初めてレファレンスサービスについて知りました。一般の人も、あまり知らないサービスかと思います。

事例集も、見ていくと面白い事例がたくさんあります。そこへ、どうやって誘導していくかが重要です。ホームページのポータル画面で「調べもの案内」となっていますが、もっと利用者を誘導するようなネーミングに出来ないかなと思いました。

のぞいてみれば非常に面白いと思うのです。様々な事例があり、私もそこからいくつか対象の本を買ったりしています。まずは、普通の人には知らないレファレンスというものを知ってもらい、そこを生かして利用者を増やしていく仕組みが欲しいと思います。

委員長 使ってみると使える、というのが図書館のレファレンスで、皆さん結構知らないだけなのです。事例集がたくさん載っているということは、そこに行くとき非常に面白いことがたくさん発見できるということです。私も、そこに誘導するためのきっかけづくりが必要だと思います。

事務局 レファレンスのページも、当初はホームページに「レファレンス」と載っておりました。一般に知られていないということで「調べもの相談」とした経緯があります。

その事例の中にも、あんパンがいつごろできたのかといった、子どもでもわかるような事例を少し載せて誘導を図っているのですが、まだ少し弱い部分があります。皆さんのアドバイスもいただき、誰にも分かり易く親しみやすいサービスにしたいと思います。ご協力をお願いします。

委員 今のお話に関係することですが、13 ページ(1)“ケ”の子どもに対する啓発事業につきまして、実施の必要性を感じられ、サービスを開始されたというのはとても良いことと思います。

千葉市の子どもに対する図書館サービスを全体的に見た時に、お話し会は非常に充実されており、おはなしボランティアの方の養成など、大変良く対応されております。読書まつりや科学本の紹介など、多彩な子どもに対する読書への導きをされているかと思えます。

ちょっと欲を出して言いますと、千葉市の子どもに対するサービスは、もう一歩先を行っても良いのではないかと思います。それは何かと言いますと、先ほどの調べもの相談のところで、実際見てみると面白いといったことと同じで、子どもたちに図書館というのは本を借りるだけではない、実際来てみると色々なことを調べられ、知ることができる、面白い場所だといったPRなどです。

お話し会の日程のお知らせも必要ですが、例えば夏休みに沢山の申し込みがなされる図書館見学ツアーに併せ、調べ学習とか、夏休みの自由研究をどう調べていったら良いのかという講座を、地区館を含めた各館で実施し、利用者へ積極的に働きかけを行うことが、次の図書館に必要なことかと思えます。

ただ、インターネット端末が千葉市にないのは残念ですが。

これらは25年度以降の話になるのかとは思いますが、そのような内容のことを加えていただけたらと思います。

委員長 今のは、ご意見ということによろしいですね。

委員 先ほどのレファレンスの所ですが、発行している『図書館だより』の後ろにレファレンス事例を載せていると思うのですが、その掲載内容は、ホームページの掲載内容とタイアップしているのでしょうか。

取組項目ではホームページへの掲載は25年度に実施となっていますが、『図書館だより』の掲載事例から選んで載せるとかでもよろしいのでしょうか。また、『図書館だより』にはどのような基準で事例が掲載されるのかということについて知りたいと思います。

それから、調べものというのは、学校でも読書と併せて調べ学習を行っており、調べる手順等については学校教育の中でも行われているかと思われまます。また、自由研究に関しては、“きぼーる”などでも関連する講座が行われておりますので、そういった機関とのタイアップが必要かと思われまます。

委員長 『図書館だより』とのリンクの関係はいかがでしょうか。

事務局 現在のところは、『図書館だより』に掲載された項目全てをホームページに掲載しておりません。ホームページに掲載する際は、そこから更に該当資料のリンクを貼るといった作業が必要となりますので、全てに対応し切れておりません。

今後はリンクの貼り易い事例集の作成に留意しながら、『図書館だより』に載せる事例集を作成するようにしていきたいと思えます。

事務局 基本的には『図書館だより』に載せる事例というのは、レファレンス事例集より選別して掲載しております。

委員長 それは、「レファレンス協同データベース」には入っているということでしょうか。

事務局 一部入っておりますが、全てではありません。

委員長 すみませんが、少し説明させていただきます。今の「レファレンス協同データベース」というのは、国立国会図書館が全国の図書館であったレファレンス事例をデータベース化しているものです。

現在は10万件以上の事例が登録され、6万件以上の事例が公開されている、全国レベルでのレファレンス事例集となっております。

千葉市も参加館になっておりまして、千葉市で出た事例をそこに登録する作業をされております。

皆さんも検索エンジンで“レファレンス協同データベース”と入れていただければ該当すると思いますので、そこで「千葉市」と参加館を入れていただければ千葉市の事例が出てくると思います。

そこで見ている結構面白い事例としては、アクセスの多いレファレンス事例というのが確認できますし、夏休みになるとアクセスの増える事例とかも見られます。様々な使い方ができますので、是非とも図書館で「レファレンス協同データベース」により多くの事例を登録していただき、それをパスファインダーのように使われると良いかと思います。

委員 皆さんも、結構ご存知ないと思います。

委員長 余談ですけれども、うちの学校でも司書課程で初めてレファレンスというものを知ったという子がたくさんいます。もう少し調べもの学習の場において、レファレンスサービスを知っていただく必要があると思います。

他にありますか。

委員 何点かありますので、分けてお伺いします。

まず2ページ(1)“キ”の移動図書館サービスについてですが、移動図書館で借りた本は一般の図書館で返却できるのでしょうか。逆に、一般の図書館で借りた本を移動図書館で返せるのでしょうか。

それから5ページ(1)“エ”の「検索ミニレッスン」については、花見川図書館で実施されていると伺っていますが、確かに機械が使えなくて先に進めないという方も多いと思いますので、是非とも他の館にも広げていただきたい。また、外部評価コメントにもありますが、検索機周辺への人的配置についても検討いただけたらと思います。

それから9ページ(1)“オ”のソーシャル・ネットワーク・サービスについて、外部評価コメントにもあったフェイスブックの開始による効果や問題点についてお聞きしたいと思います。どのような意見があり、今後の図書館サービスにどのように反映していくのか、また、市民一般の意見ではない、個人的な意見に対してどのように対応するのかといった、問題点やそれらの検証について、図書館としての考えを伺いたいと思います。

事務局 まず、移動図書館の利用についてですが、ご存知のとおりバスでステーションを巡回し、貸出を行っております。その貸出をする際に、移動図書館ではポータブル端末機という、システムと切り離されたオンラインでは

ない携帯の端末に貸出情報を入れて、図書館に戻ってからシステム本体にデータを移しております。

図書館の窓口であれば、貸出などの情報はすぐにシステム全体に反映されるのですが、移動図書館は、一度出発してしまうと図書館に戻るまで情報が落とし込めませんので、タイムラグが発生します。

そうしますと、移動図書館で借りた本を図書館で返すのは良いのですが、図書館で借りた本を移動図書館で返されてしまうとタイムラグが生じてしまい、情報が更新されるまで返された方は図書館で本が借りられなくなってしまいます。そのため、こちらについては、現在受け付けておりません。

携帯等による移動図書館のオンライン化については、技術的には可能なのですが、対応するための予算などの問題もあり、現在はオフラインで運用しております。財政状況の好転などにより、オンライン化を改めて検討することもあるかもしれませんが、現状はオフラインによる運営のため、対応は難しいところです。

事務局 フェイスブックに関しては、図書館側からのリアルな情報発信を行っていく媒体として活用しております。実際に、図書・雑誌の無料配布をフェイスブックで周知したところ、その日に見て来てくれたという事例があります。

図書館としては、様々な広報媒体を使った PR をしていきたいと思っており、今後も続けていきたいと思えます。

現時点では、問題点は出ておりません。

事務局 資料の検索講座についてですが、昨年度は個人レッスン形式で実施しております。

随時お申出による実施の他、具体的にこの日にやります、といった形でも開催しておりますが、1回の参加は1~2名といったところです。

新しく図書館を利用する方や、検索機を使ってみたいという方々に参加いただいております。

今年度も、具体的な日程は定めておりませんが個別のお申出については継続して実施しており、帰る頃には使えるような対応を行っております。

委員 参加者が少ないのが残念です。それならば、申出とかではなく、食品販売のように“今やっていますよ”といった開催している旨の PR をもっとして、利用者を集まってもらって、まずはこんなサービスもあるのかといった感じで知っていただくことも良いのかと思います。

委員長 検索ミニレッスンについては、私が以前いた図書館でも、「インターネット情報へのアクセス指南」といった講習を行っており、意外と多くの方に集まっております。

端末を15台用意しまして、2時間程度講習を行っております。知りたいといった要求は誰にでもあることなので、意外と高齢の方も参加されている

ようです。もっと多くの館で、このような検索レッスンに取り組んでいただけると良いかと思えます。

フェイスブックについては、ツイッターと比べて実名が出てきますから、その点で幾分安全性が担保されているのかも知れません。ただ、まだ検証は必要かと思えますので、引き続き利用拡大に向けた分析や検討をしていただきたいと思えます。

他にいかがでしょうか。

委員 続けてお伺いします。【方針 4】の 12 ページ(1)“ウ”、先ほどもお話しがありました。お話し会以外の図書館サービスについて、科学の本の紹介など様々な取り組みを通じて、子どもたちに興味を持ってもらうといった取り組みは良いかと思えます。

ただ、こちらもお話がありました。児童だけでなく全体的に貸出冊数が減っている現状については非常に残念で、それはどうしてかという検証は今後必要になるかと思えます。

それと質問ですが、(1)“イ”の取組結果に中・高校生にアンケートを取り選書したとありますが、どこでどのようにアンケートを取られたのでしょうか。また、実際にどんな回答があったのかという事例もお聞き出来ればと思えます。

それと 14 ページ(2)“ケ”のファミリーブックタイム事例集ですが、私は何度か協議会の中で、“要らないのでは”と意見させていただきました。ただ、今年配られたものを見せていただくと、以前より見やすくなっており、紹介されている本も替って、非常に良くなったと思えました。一つ希望としては、やはりお話し会だけではなく、図書館の利用案内みたいなものが入っていると良いかと思えます。

委員長 中・高生へのアンケートについて、事務局からお願いします。

事務局 昨年度、若葉図書館においてアンケートを実施しております。ただ、それは YA コーナー利用の来館者に対し、聞き取り調査で実施したものですので、そのまま数字等に集計したものはありません。

若葉図書館では YA コーナーに力を入れており、24 年度の児童書の貸出冊数は前年度比増となっております。まだ精査はしていませんが、YA コーナーの雑誌・書籍数が約 3,000 冊と、地区館としては多分多い部類かと思っております。

ただ、YA コーナーは中高生などの子どもの利用を増やしたというよりも、若い方を中心に一般の方の利用が増えたように感じております。

準備した本の利用者の年代が一致しているのかについては検証が必要ですが、やはり児童書としての準備冊数が増えると、利用冊数が増えるのかという気はします。

委員長 ありがとうございます。ファミリーブックタイム事例集については、ご

意見ということでよろしいですね。

YAについては、積極的に対応されていらっしゃると思いますので、引き続き充実させていただければと思います。他にいかがでしょうか。

委員

いつも緑図書館を利用しております。去年からYAコーナーの工夫が色々となされており、非常に感心しております。設置場所が、子どもたちが勉強に行く途中の通路にありまして、そこに面出しで、関心のありそうな本を紹介するなど、ちょっと立ち止まって見てみようという気にさせられるような工夫がされており、非常に良くなったと思います。

それから、地域資料について伺います。

この間、私は土気の小山町という所の、里山の復元活動に関する資料が必要となりました。地域資料ということで、県立中央図書館に行って調べていただいたのですが県には見当たらず、細かく調査していただいたところ、千葉市中央図書館にあります、といった回答をいただきました。このような、地域の人たちが懸命に活動された記録でもある地域資料を、千葉市の図書館はきちんと集められているということについて、非常に感動いたしました。

図書館の役割の1つに、地域資料といった貴重な資料をどう収集していくかといったことがあります。行政資料は自動的に行政組織から送られてくるとしても、その他の地域資料というのは、どのような方針で、どのように収集されているのでしょうか。また、どのように専門的に収集にあっている職員の方が配置されているのか、お聞きしたいと思います。

委員長

それではまずYAコーナーについて。事務局よりお願いします。

事務局

YAコーナーにつきましては、若い職員から、利用する世代は非常に微妙な年頃なので、児童コーナーにあると利用しにくいと思われるため、移動した方が良いのではとの提案がありました。

そのため、皆で考えた結果、階段下に読書室とレファレンス室があり、よくYA世代が階段を降りる際に通る場所に設置することとしました。また、委員よりお話をいただいたように、若い人達の目に止まるような、面展示や気の引くような掲示の工夫をしました。

おかげさまで、多くの方の利用をいただいているところです。

若葉図書館からも話がありましたが、YAコーナーの利用は、中高生以外の一般の利用者、つまりYA世代以外の利用も多く見られます。利用している方にお話を伺ってみたところ、昔読んだ懐かしい本があるといった意見がありました。このような観点からも資料を収集して、今後もYAコーナーを充実させていきたいと考えております。

委員長

ありがとうございます。今のお話のように、ちょっとした工夫でコーナーが良くなり、利用が増えていくといったこともありますので、色々なアイデアを出していただきたいと思います。

事務局

地域資料につきましては、図書館には児童や広報など、専門の担当によ

る会議があります。その中で、「地域・行政資料サービス部会」というのがありまして、毎月1回中央図書館・各地区図書館の地域資料担当が中央図書館に集まり、そこで様々な情報交換を行います。その中で、例えば新聞で紹介された地域関係の資料一覧を準備・配付し、それを基に購入の判断や、どれを地域資料として集めていくかといったことを決めております。

委員長 私も以前いた図書館で地域資料を担当しておりましたが、地域資料を集めるということは、ある一定以上の経験を持ってできることだと思います。地域とのつながりの中で集まってくるといってもありますので、そういった意味では専門性の高い仕事であると思いますし、積極的に情報収集にあたっていただく必要があります。

先ほどの委員のお話の通りですが、探している地域資料が図書館にあることが分かると、確かにその図書館の信頼性は高まりますね。

委員 初めて発言させていただきます。

私は中学校の校長をしております。この間、職場体験ということで、生徒が中央図書館で様々な体験をさせていただきました。私も一緒に点字図書館のことを勉強させていただき、私自身知らないことだらけで、大変貴重な経験をさせていただきました。

その体験をした中に、大変無口な生徒がおりまして、そのお母さんから体験終了後に手紙をいただきました。その手紙には、恥ずかしがり屋で、普段家でもそれ程話さないうちの娘が、その日は家でも自分は図書館が大好きだったと、夢の図書館で体験ができたことはとても嬉しかったということを書いてくれたと書かれておりました。

今回、体験の子どもたちの様子や中央図書館のことを、『学校だより』で紹介させていただきました。うちの『学校だより』は保護者配布だけでなく、地域の回覧板にも毎月入れております。1万4千人位の学区内にお住まいの方、全てに回っていくこととなります。

今までお話を伺っていると、インターネットなどが普及し、広報等に使われているというのは良く分かりますが、そういったものと関わりのない方達もかなり居るのではないかということです。図書館のことが回覧板で回ってくるというのは、今まで自分は見たことがありません。私自身、手元に何か来なければ人は動かないと思っています。

それと、中学校内の職員との話で思ったことですが、学校でも図書館と様々な連携を取らせていただいております、団体貸出の本は公民館まで届けていただけるようになっていると思うのですが、職員は空き時間もないような毎日を過ごしており、本をそこまで取りに行くことも難しいのが現状です。そこで、団体貸出の受付時間をもう少し延長していただくとか対応していただくと、学校としては非常に助かります。

私は国語の教師で、子どもたちに図書館の話は結構しています。ただ、

公民館図書室の話はかなりするのですが、中央図書館の話はしたことがありませんでした。なぜかと言いますと、中央図書館は距離があり連携を図りづらいためです。この資料を見たところでは、図書館から小学校に出向いて利用指導など啓発されているといった記載がありますが、是非とも中学校にも来ていただければと思います。

それから、小学校の段階で非常に読書習慣などについて経験を積み、本を読むのが好きな子も非常に増えています。ところが中学生になると、本を読む量が急激に少なくなります。部活動などで忙しく読んでいる暇がないとか様々な原因があると思うのですが、本を読む生徒は、図書室でどのように本を選ぶのかというのを見ていますと、必ず図書館指導員さんのところに相談しています。図書館でも、こういうことで本を探しているがお勧めの本はとか、そういった脇にいて話を受け止めてくれるようなシステムができるといいなと思ったことがあります。

それから、うちの学校は耐震工事で校舎が使えないので、理科の自由研究で調べ物をしたいとかいった場合は図書館を利用するように指示するのですが、例えば生徒が中央図書館とかの施設に出かけて行く時に、教師の側が“中央図書館では今こういうことをやっている”ということを知らないと、話をすることも出来なくなってしまいます。

資料に、学校図書館指導員との連携についても載っております。それと併せて、これは我々の側としても努力が必要ですが、ぜひとも一般の教員に対しても、職場体験という形でも構いませんので、お願いしたいと思います。

私も中央図書館を何度か利用していたのですが、職場体験でここに点字図書のコーナーがあるということを知ったりして、目から鱗状態でした。できれば、一般の学校教員にそういった場を設けていただけると、子どもたちへの声かけも何倍にも広がっていくのではないかと思います。

最後に、様々な機関との協力という話がありましたけれども、例えば、現在市の美術館では高村光太郎展が行われています。見る前に調べてみたいという時に、学校の図書室ではそれ程満足な資料がありません。そこで、美術館の展示会と併せて、市の図書館で関連資料を展示しているとか、図書館で博物館の展示会に関連する図鑑とかのコーナーを作っている、といった動きが取れると、子どもたちは動きやすいですし、私達も美術館で見ただけでは物足りない、もっと知りたいと思った時に、図書館で関連する展示企画があったりしますと、図書館に足が向くのではないかと感じました。

まとまりがなく申し訳ありませんが、現在感じていることを申しました。

委員長 ありがとうございました。図書館体験については、生徒にも刺激になった、大変良いお話だと思います。

委員 委員からのご意見は本当に共感するところが多くありました。先ほどのお話のとおり、学校の先生が図書館のことをどの位良く知って、案内して

いただくことができるかはとても大切なことだと思います。図書館も学校や先生との協働について様々な取り組みを始めているようですので、その中で先生方への講座についても是非とも実現させていただけたらと思います。

事務局 中学校へのお話し会についてですが、地区館ではご要望いただければ、学校に出向いて実施しております。ちなみに若葉図書館では、千城台西中、みつわ台中でお話し会を行っております。

もちろん学校も忙しく、日程調整が厳しい面もあるかと思われませんが、それらも含めてご要望があれば地区館にお話をいただければと思います。

事務局 回覧板のお話をいただきましたが、私もインターネットの掲示板より回覧板で回っている紙資料の方が好きです。ただ回覧板にお願いするに当たっては町内自治会との調整が必要となりますので、改めて検討させていただきたいと思います。

なお、お話をいただいた市の美術館で開催している高村光太郎展に関しては、多少展示期間とずれはありますが、今回中央図書館において企画展示で関連本の紹介を行っております。

それと併せて、市の観光部局との協力も得て「オニオンマガジン(2013年8月号)」に、図書館が市美術館と連携しているという記事の掲載をお願いしているところです。確認しておりませんが、掲載されている頃かと思います。

委員長 まだ先生方に知られていないサービスも多いかと思っておりますので、PRの部分をもう少ししていただくと良いかと思っております。

時間が大分過ぎております。他にこれだけは、という方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいですか。

それでは今回の評価のまとめですけれども、様々な意見をいただいておりますが、原案のとおりでも差し支えないのですが、今いただいた意見について改めて入れ込む形を取った方がよろしいでしょうか。

委員 《発言なし》

委員長 この原案のままでよろしいでしょうか。

それでは、原案のとおり決定したいと思います。今一度部会員の中で調整をかけるべきか確認したいと思います。とりあえず、原案のとおりで行きたいと思っております。ありがとうございました。

(3) 平成 25 年度 千葉市図書館のサービス取組項目及び評価指標について

委員長 続きまして議事(3)に行きたいと思っております、事務局より説明をお願いします。

事務局 お手元の【資料 2】をご覧ください。

方針別に、平成 25 年度の取組項目をお示ししております。

こちらは昨年度、3月 22 日に開催しました平成 24 年度第 3 回千葉市図書館協議会において、評価の見直しに係る事務局からの説明の中で、年度末

にお示した事業計画における取組項目を、評価における取組項目として連動させる方針をお示しし、ご了承いただいたところです。

つきましては、当日にお配りしました「平成 25 年度予算及び事業計画について」でお示した取組項目を、基本的にはそのまま評価における項目としてお示しし、一部、今回の作業の中で指摘をいただきました類似項目について整理を行っております。

併せて、方針別に評価指標をお示ししております。こちらは、「千葉市図書館サービスプラン 2010」における、プラン推進のための評価方法として示されている PDCA サイクルを推進するに当たり、継続的な指標の把握及び分析が必要とされることから、引き続き平成 24 年度に準じた評価指標を設定いたします。

新規、拡充の項目については別途表示を行っております。それらが新たに今年度から加わった項目となっております。

事務局からの説明は以上です。

委員長 ありがとうございます。基本的には 24 年度と同じような評価を行うということでしょうか。

事務局 その通りです。

委員 よろしいでしょうか。資料 6 ページの「ブックリストの作成・配布」についてですが、ブックリストの更新は前々から問題となっておりますので、ここに新しいブックリストを作成することを明記いただけたらと思います。

それと、7 ページの啓発事業について、先ほどのお話のように、調べ学習などに対する講座については「検討します」ではなく、研修会など 1 つ位は実施に動いていただくことは出来ないのでしょうか。

それから、10 ページの「図書館サポーター(仮称)」制度のところですが、毎回“C”評価ということで、前に進んでいない感じがします。図書館として、サポーター制度はどのようなものと捉えられていて、今後、どう軌道に乗せていこうと思っているのか、もっと踏み込んだボランティアに対する指針というものを示した上で、進めていただく必要があると思います。

最後に、12 ページの指標、司書資格を有する職員割合について、全体で増ということですが、ここは正規職員のところを前年度増として頂きたいところです。以上です。

委員長 それではブックリストの更新の件から、事務局よりお願いします。

事務局 現在、ブックリストにつきましては、予算制約上の問題があるため、更新は厳しい状況です。

来年度予算が 9 月以降に作業が始まりますので、そこで予算確保等に努めて参りたいと思います。予算確保が厳しい場合は、追加リストの差し込み等で対応し、既存のリストを引き続き配付することになるかと思っております。

事務局 図書館サポーター制度と、司書資格職員の割合についてですが、これ以

上の記載変更は図書館側としては非常に厳しいところです。ご了承ください。

委員長 一応、前年度増を目標とされているということですね。ブックリストについても、今年度も取組項目としてありますので、評価の際に注視していくことになるかと思えます。

調べ学習の件についても、評価の中で検証していくということによろしいでしょうか。

事務局 図書館サポーター制度など、市民との協働については中々進展していませんところですが、今年度は子ども読書まつりについては企画段階から地域団体の方にメンバーに入ってもらっており、その中で様々な連携を図っております。

また、来週始まる親子図書館探検ツアーにつきましても、地域団体の方にご協力いただき、一緒に開催していく形を取っております。これからも、引き続き市民との協働について進めて参りたいと思えます。

委員長 まずは一部で実績をつくり、積み重ねて、全体に波及させて、といった構想でしょうか。ありがとうございます。

委員 資料の 2 ページ、指標 1-1 で 1 人あたりの貸出冊数が 5.2 冊となっておりますが、これは千葉市として、貸出冊数の向上に余裕がある数字だと感じております。

昨年、公共図書館の個人貸出冊数が 7 億 1,500 万冊あります。また、出版業界の本の販売冊数が約 7 億冊で、去年から貸出冊数が販売冊数を凌駕しております。それは良いことだと思いますが、それを千葉市に落としてみますと、千葉市で昨年売れた本は 154 億円で、販売冊数にしますと 1,354 万冊、それを千葉市の人口 93 万人で割ると、1 人 14 冊本を買っています。全国的には 7 億冊を人口の 1 億 2 千万人で割ると、6 冊に満たない状況の中、千葉市は 1 人 14 冊も本を買っている市場ベースがあります。

それから考えると、市民がこれだけ本を買っている、つまりはお金を出してでもこれだけ本を見ているということですから、読書活動が活発であるということです。図書館がこれだけ頑張っていますけれども、千葉市はまだアンバランスであり、1 人あたり貸出冊数も、5.3 冊と言わず 6 冊位までは行けるのではないかと感じております。

それと逆に 8 ページ、児童図書のところですがけれども、千葉市は読み聞かせなど非常に読書活動が活発だと思います。児童書の貸出冊数も 123 万冊あり、市全体で 503 万冊ですから割合で 24.5%、つまり 4 冊に 1 冊は児童書ということになります。出版業界では児童書はここまで売れておらず、全体の 7%程度ですから、大変素晴らしい数字だと思います。

児童書については成果が出ており、先の通り、一般書については上がる余地があると、数字上感じております。

委員長 1人あたりの貸出冊数の5.2冊は、全国平均から見ますと少し下回っていますので、確かに平均以上は目指す必要があるかとは思いますが、直接のデータはありませんが、児童書については一般書と児童書の貸出割合が全国図書館の平均で25～27%位あると思いますので、まだ少ないのかなという感じはします。

しかしながら、まだ向上の余地があるというのを、今のように図書の購入実績との兼ね合いから見るとというのは、大変面白い視点かと思えます。

目標設定としては、前年度比増となっていますので、目標等についてはこのままとさせていただきます。

それでは、議事(3)については、原案どおり決めさせていただきたいと思えます。よろしくをお願いします。

委員長 それでは議事がすべて終了しましたので、次第の「3 その他」になります。先に、事務局から何かございますか。

事務局 【資料3】をご覧ください。先ほども触れましたが、図書館の利便性向上に向け、経費をかけずに何ができるのかということで、館長含め全館体制で協議を行いまして、今年度からの実施を決定したものを、2つご報告いたします。

まず1つ目が、年始の1月4日、この日につきましては年末年始の休館期間、12月29日から1月3日までにブックポストに返却された本、また、インターネット予約分の処理を行うため、1月4日を1日休館して対応してきました。

これを出勤体制や処理の効率化を図ることにより、午後から開館できる見込みとなりましたので、来年、平成26年1月4日の午後1時から試行的に開館する運びとなりました。この試行的の意味については、1月4日の休館は千葉市図書館管理規則で決まっていることですので、まず規則改正をせずに試行的に実施及び検証を行い、正式に開館する際は、規則改正を行っていくこととしております。

それから2つ目の特別整理期間、今まで休館して行っていた蔵書点検は、7日間かけておりました。月曜日の休館日を含めると、実質8日間連続した休館となり、更に地区館などでは祝日休館を加え、9連休となる場合もありました。

こうした長期間の休館をできるだけ短縮するため、まず蔵書点検期間中に行なわれていた清掃活動を毎月第3木曜日の定例休館時に分散して実施するなど工夫し、今年度は5日間で点検を行うこととしました。

また、今まで毎年蔵書点検を実施しておりましたが、点検で判明する不明本が比較的少ないということもあり、この蔵書点検のタイミングを2年に1回とし、今年度に関しましては、中央図書館のみ5日間で行うという

こととします。来年度は中央図書館では点検を行わず、地区館・分館のみ行う形で進めたいと思います。

1月4日の午後開館と蔵書点検期間の短縮により、単純計算で恐らく年間5万人の来館者増になる見込みです。説明は以上です。

委員長 ありがとうございます。開館日・時間が増えるというのは、利用者にとってはありがたい話かと思えます。内部点検作業は結構大変な作業だと思います。準備作業にも多くの時間が費やされますが、その中でやりくりをし、開館時間の増加につなげていただきたいと思います。

今の事務局からの報告に何かご意見等ありますでしょうか。

委員 《発言なし》

委員長 ありがとうございました。とりあえず、今回の試行から本格実施につなげていただきたいと思います。それ以外に何かありますか。

委員 評価の関係以外についてですが、まず1つ、良かったことについてお話しします。

ホームページが先日リニューアルされ、その中の追加メニューにマイブックリストというのがありました。使ってみて驚いたのですが、我々文庫活動に参加する者は、簡単な本のリストを整備することが多く、いつも著者名や出版名を打ち込んだり、コピー・ペーストを行ったりして、大変な思いをしておりました。それが、マイブックリストを使って登録を行いますと、図書館の所蔵資料に限られますが、リスト表が簡単に作れるのです。

自分でテーマに関連した本をピックアップした上でのことですが、自動的に作れてしまうのは素晴らしいと思えました。

それと2点質問ですが、今回の協議会の開催について、ホームページで告知されていなかったと思います。それで、これだけ傍聴の方がいらしたのは不思議ですが、是非ともしっかりした対応をお願いいたします。

あと前回のスケジュールから、今回の協議会で平成24年度の事業実績報告があると思っていたのですが、そのあたりはどのようになっているのでしょうか。

事務局 この協議会についてのお知らせなのですが、ホームページでは行っているはずなのですが、現在職員が確認しているところですので、少々お時間をいただきたいと思います。

それから、24年度の図書館事業の実績報告については、毎年刊行しております「千葉市の図書館」が現在作成中として、8月中の完成予定で進めております。もう少々お待ちいただきたいと思います。

委員 事業報告も、本来は協議会で行っていただくべきものかと思えます。お願いします。

委員長 出来た段階で、委員の方々にはお送りいただけるということですね。他にありますか。

委員 学校の子どもたちも夏休みに入り、図書館の利用がこれから増えていくかと思えます。自由研究につきましても、既に対象資料が借りられてしまっているといった状態が続くなど、図書館の職員にとっては 1 月強に渡り大変忙しい時期かと思われます。

私は現在特別支援学校におります。昨年中央図書館長に、特別支援の子どもたちが夏休み中に各図書館を利用するに当たり、支援をしていただけるようお願いさせていただきました。支援が必要な生徒も、本を楽しむことが出来ることについては一般の生徒と同じです。ただ保護者からしますと、うちの子が騒いだり大きな声を出したりして迷惑なのではないかとか、車いすで回りづらいとか心配事が沢山あります。それでも少しでも行ってみたい、子どもに図書館を楽しんでもらいたいという希望は強く持っております。図書館の方々にも、生徒や保護者のこのような気持ちに伝えていただけるような対応をお願いしたいと思えます。

私の学校は稲毛区ですが、若葉・中央・緑区在住の生徒がやってきます。学校に『図書館だより』をいただいておりますが、生徒数分いただける訳ではないので、本校ではイベント情報については、該当する情報をコピーして生徒に配っております。先ほど、印刷媒体による広報について報告がありましたけれども、うちは少数なので個別にコピーして対応できます。しかし、千人規模の学校などでは配るだけでも大変だと思います。もちろん対応している学校もありますが、図書館の広報については、みんなに同じように伝わるよう考えていただければと思います。

今月号の『図書館だより』は、子どもたちの大好きな「ぐりとぐら」のことが紹介されており、受け入れる図書館も、紹介に合わせて展示の工夫をされているなど、色々と連携が取られているのは良いことかと思えます。

最後に、市民の方たちと子どもたち、自立支援の子どもたちへの読書活動の支援というものを、併せてお願いしたいと思えます。是非ともご検討願います。

委員長 ご意見ということでよろしいですね。

あと、他の委員さんからもご意見があるようですが。

事務局 その前に、先ほどお話しさせていただきました、昨年度デジタル化した地域資料についてご覧いただきたいと思えます。

【デジタル化地域資料の放映】

- ・東京オリンピック 千葉市街聖火リレー及び市内で実施された近代五種クロスカントリー(昭和 39 年)
- ・皇太子加曾利貝塚ご見学(昭和 40 年)
- ・北部図書館オープン(昭和 47 年)

これらは、昭和 39 年から継続的に制作されている「千葉市ニュース」からの映像です。私くらいの古い年代の方であればご存知かと思えますが、かつ

ては映画館でニュースを放映しておりました。これらはその際に作った映像と思われまます。

それから、これらニュース映像の他に、広報課が毎年作成しておりました広報映画と、千葉テレビが昭和 46 年に開局され、恐らくそちらで放送されていた「こんにちは千葉市」の映像など、合わせて 118 本のデジタル化を行いました。これから、著作権や隣接権、それから肖像権などの課題について、関係者や有識者の方々と相談し、貸出に向けた取り組みを進めて参りたいと思います。

委員長 ありがとうございます。貴重な情報になると思います。デジタル化して保存していく取り組みに関しては、ぜひ今後も進めていただきたいと思います。図書館でのブラウン方式の貸出場面は、私も昔やっております、大変懐かしい思いで見させていただきました。

定刻を過ぎておりますけれども、事前にお二人の委員から、発言の申出をいただいておりますので、もう少しお時間をいただきたいと思います。

それではお願いします。

委員 お手元に資料を配らせていただきました。まず、千葉市の図書館の貸出の 2 割が公民館であるという現状から、公民館図書室全 21 館を回らせていただきました。

そこは暗い、汚い、狭い状態で、本もこれが本かといった酷いものも数多くありました。それでも年間 100 万冊借りられているのです。これはすごいことだと思います。

こういった意味でも、まだ千葉市は貸出数などに向上の余地があると思います。公民館は生涯学習振興課、つまり所管が違うという以前からの説明ですけれども、選書に関するサポートだけでなく、もっともっと公民館が元気になるようにしてもらいたい。予算が違うといっても、公民館の施設の充実とか、もちろん本の充実とかの対応が必要かと思ひます。

配付資料を見ていただきますと、中央区内における公民館の本の貸出率は 2.5%、これは中央図書館の規模が大きいためでもあるのですが、花見川とか稲毛、若葉区などは、貸出の 30%以上を公民館に依存、といいますか、それだけの割合で利用されているのです。

公民館図書室のあるところは、いわば図書館の利用が難しい地域ですので、そこしかないから足を運ばれているのかと思います。そうはいっても、並んでいる本が古すぎます。10 年以上前の本が当たり前並んでいる状態です。同じ利用者でも、公民館を利用している方は、図書館を利用している方と全然環境が違っている、環境に格差が生じている訳です。

千葉市の読書環境の拡充ということを考えると、改めて公民館図書室について考えなければいけないと思ひ、数字を出させていただきました。

もちろん公民館図書室でも、桜木公民館は新しいこともあり比較的図書

館らしい施設でしたし、幸町公民館は規模が大きく立派な感じがしました。けれどもその他、特に郊外の公民館については、言い方は悪いですが、みすぼらしく感じます。それでも貸出数はかなりあるようです。

あと、資料の下の表は地区図書館の閉架率です。私は本屋ですから営業視点で考えてしまうのですが、書店については書棚に出ている本があっちはいけない、全部出せというのが基本です。

もちろん図書館は資料の保存というのもあり、閉架率が高いから悪いとは一概に言えないとは思いますが。それでも資料は、できるだけオープンにするべき、誰でも手にとって見られるようにするべきだと思います。

本日はとりあえず、公民館の現状だけは知っていただきたいと思います。

委員長 続きましてお願いします。

委員 私も、関連することで資料を用意いたしました。2枚目のグラフを見ていただきたいのですが、先に委員が申されましたとおり、市全体の貸出数の20%、5分の1が公民館を通して貸し出されています。

それなのに、公民館図書室の資料費はどんどん下がる一方です。2009年は桜木公民館図書室を設置したことによる資料整備のため、一時的に増えているに過ぎず、減少傾向は強まる一方です。資料費が削られているから、資料も古くなる一方です。それにも関わらず、利用者数、貸出数は少しずつ増えています。全体に占める公民館図書室利用者への貸出比率も高まっており、図書館サービスを考える上で公民館図書室の充実は避けて通れないものと思われまます。もっと公民館に対する図書館としての支援体制を考えていただきたいと思います。

委員長 ありがとうございます。両委員とも公民館の現状についてのお話でしたが、確かに、公民館が指定管理者の導入に動いている中、図書館として公民館図書室をどうしていくのか、公民館の方針が出てから動くのでは遅いと思います。事務局より何かありますか。

事務局 現在、公民館において指定管理者制度の導入について協議しているところです。公民館の運営そのものをどうするか協議をしているところで、図書室の運営など運営の各論については、まだ協議そのものも行われておらず、図書館としても具体的な動きはありません。

委員長 指定管理制度の導入には慎重な対応が必要です。指定管理者制度については、佐賀県の武雄市が指定管理者制度導入に伴い、民間のTSUTAYAに運営委託を行ったことが非常に注目されています。武雄市でが全国の自治体で始まっていて、どこも武雄市の視察に行っている状況ですが、私としては正常な状態とは思えず、もう少し冷静に判断すべきだと思います。評価するにしても、もう少し長い目で見なければいけないと思います。

それよりも、足元の千葉市の図書館を評価していただきたいと思います。今回の評価を見ても、やるべきことをしっかりやっていると思いますので、

それを武雄市に合わせる必要はないと思います。

委員 市会議員の田畑直子さんが、今回の議会の質疑で図書館を取り上げていらっしゃいました。議会で図書館の事を今回ほど長く取り上げた例は初めてかも知れず、とても嬉しいことと思います。

議会は直接見にいけず、後で録画を見たのですが、その中でも議員は武雄市に大変興味を持たれているようで、それに他の図書館も見られていて、色々と感動されているようでした。

私ども見ていて感じましたのは、議員は図書館行政について熱く語られているのですが、それに対する教育次長の答弁は、淡々と報告されている感じでした。図書館がこんなに色々なことを行っているのだから、もう少し現場を見ていただき、これ程頑張っているというのをもう少し伝えていただきたかったなというのが私の実感です。

その中で議員が武雄市のことで言われていたのは、何故武雄市に指定管理者にしたのか聞いてみたところ、市長の行きつくところの考えは通年開館にあったと、いつでも図書館が開いているというのが、最終的な目標だったとのことです。私はそこまでは望みませんが、武雄市はそのために色々と取り組まれたようですが、最終的には 365 日開館に行きつくためには民間にする他なかったとの回答をいただいたと、話されていました。

図書館は、歩いて行ける所にあり、そこにはいつも専任の図書館職員が居て、6 万人程度の人口の町で 1 億円以上の予算をかけ、資料もしっかりと揃えられており、市民に感謝されているということでした。

その中で、議員は図書館というのは首長の意見、ビジョンが直接反映される施設であると、ですので、市長さんがどういうビジョン、図書館像を持っているかで今後の図書館が見えてくるのではないかと、ということでした。また、そのビジョンの違いで、運営形態も自治体間で様々な違いが出てくるのではないかと申されていました。

となりますと、千葉市長のビジョンが非常に気になるところです。

先日、市長は所信表明演説をなされました。その中で「読書率日本一」を表明されていました。議員は、千葉市を読書率日本一にするために、市長はそのための計画を具体的にすべきだと言われていました。

そこでですが、読書率日本一にするため図書館はどういうことをしていくつもりなのでしょう。武雄市は通年開館のために、独断的に民間への指定管理を行いましたけれども、市長はさすがにそういうことはしないと思います。図書館や議会、もちろん私どもにも相談され、意見を聞いた上で進められることと思いますが、市長がこのような方針を掲げられたということは、図書館にも事前に話があったのではないかと思います。

そのあたり、市長と図書館は今後どのように千葉市の図書館を運営されて行かれるつもりなのか、伺いたいと思います。

委員長 確かに、今の千葉市の図書館も評価されて良いと思います。もちろん課題もありますが、民間では難しいようなサービスも沢山されています。

当然、図書館でも民間での良さが出てくるものもありますが、長続きしないと思います。指定管理では、館長は教育委員会に出られない、つまり、図書館が政策決定に関われないのです。図書館長として市の教育政策に関わっていく義務があると思います。

事務局 市長の図書館行政についての考えですが、まず市長は図書館にはかなりの関心を持っています。資料費の今年度予算につきましても、当初は財政局から大幅削減が示されていたようなのですが、それを戻したのは市長でした。

それと、今回の市長の所信表明演説では、「子どもと親の読書率日本一を目指す」と言っております。この基準をどのように出すのかについては今のところ分かりません。今後市長にも確認し、どのような数字を用いていくのか検討して参ります。

委員長 読書率というのは、単純にはアンケート等で本を読んでいると回答した率だと思います。もう一つの指標としては読書量、1か月に何冊読みましたというのがあります。しかし、「子どもと親の読書率」というのはどう集計すべきか、難しいところですね。

事務局 不明点も多々ありますので、今後の調整の上、マニフェスト自体は親子の読書推進などに変更し、評価として出していくのは、市民一人当たりの読書量などの数字になっていくと思われれます。

そのような一般的な数字でないと、他市との比較も難しくなりますので。

委員長 あと、市民一人当たりの貸出数などの指標もあります。あまり貸出数で図書館を判断して欲しくありませんが、現在の5.2冊を、全国的な平均の5.5冊程度にまで引き上げるとかなり現実的な数字だと思います。浦安市は約13冊もありますので。

事務局 やはり日本一を謳うとなると、何らかの他市との比較数字が必要になりますので、何らかの数字は検討する必要が出てきます。読書の推進に関して、その他図書館の開館日や利用者の増加についても、市長マニフェストにつながる項目であるかと思います。

それから、ソフト面でも読書量を増やしていく施策を、これから考えていく必要があるかと思います。

委員長 他にいかがでしょうか。

委員 少々伺いたいのですが。図書館には育児中の母親に使って頂くためのおむつ交換スペースなどは、用意されているのでしょうか。

事務局 緑図書館には、多目的トイレの中におむつを交換できるスペースがあります。また授乳室専用ではありませんが、授乳できる部屋の用意があります。

- 事務局 稲毛図書館も、対応は可能です。
- 事務局 美浜図書館は、併設の子育てリラックス館の設備がありますので、そちらを利用していただくことになります。
- 事務局 若葉図書館も、分館含め整備しております。授乳室は専用のスペースはありませんが、お申し出いただければ対応可能です。
- 事務局 中央図書館は、専用のスペースがあります。
- 委員長 最近の施設は、最初から整備されていることが多いようです。それと、「赤ちゃんの駅」に登録されているような施設はしっかり整備されているようです。他にありますか。
- 委員 電子書籍については、千葉市はどのような対応状況なのでしょう。
- 事務局 まだ、販売会社の公共図書館に対する販売体制が確立されていないのが現状です。何社かから提供サービスも開始されておりますけれども、購入価格が自治体によって違っており、例えば、電子書籍を開始されている千代田区の図書館に聞いても答えてくれない状況です。
- 事務局 図書館向け電子書籍は、現状では紙の書籍に比べると割高になってしまっています。
- また、千代田図書館に入っている書籍も、大手の扱っているベストセラー系は少なく、ハウツーものや資格試験に関するものが多く、図書館で本当に欲しいと思える資料は少ないのが現状です。
- 委員長 大分時間も過ぎてしまいました。評価についても活発なご議論をいただき、ありがとうございました。本日の予定をすべて終了いたします。
- それでは、進行を事務局にお返しします。
- 事務局 ありがとうございました。
- 本日は長時間にわたり、慎重なるご審議をいただき、誠にありがとうございました。
- なお、先ほどご指摘をいただきました協議会の図書館ホームページの掲載につきましては、現時点で掲載が確認できております。
- 一時ファイルの関係などで、閲覧に支障が生じていた可能性もありますが、いずれにせよご覧いただけなかったとのことですので、大変申し訳ありませんでした。
- 以上をもちまして、平成 25 年度第 1 回図書館協議会を閉会します。

<閉会>

問い合わせ先 千葉市教育委員会事務局
生涯学習部中央図書館管理課
TEL 043(287)4081
FAX 043(287)4051

平成24年度 千葉市図書館の評価 **案**

千葉市図書館のサービスの向上を図るため、「千葉市図書館サービスプラン2010」の目標と方針に沿い、平成24年度の図書館評価を示します。

千葉市図書館の目標

- 目標1 地域を支え、暮らしや仕事に役立つ図書館
- 目標2 生活に潤いを与え、心の豊かさをはぐくむ図書館
- 目標3 文化や知識を伝え、次世代を育てる図書館

評価

- A : 計画通りに実施でき、一定の成果があった。
- B : 課題はあるものの、概ね計画通り実施できた。
- C : 不十分な点や課題が多く、計画通りに実施できなかった。

【方針1】図書館サービスの基本である資料の収集・提供機能を拡充します

(1)資料の収集、整理、保存及び提供機能の充実		内部評価	取組結果	外部評価	外部評価者のコメント
取組項目	ア 資料の収集・提供を迅速に行い、図書館の利用を促進します。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●毎週実施している各地区図書館職員との合同選定会議や、館内選定会などで資料の選定を行い、利用者の要望などを迅速に反映させ、資料の収集に努めた。 ●中・高校生向けの本や科学の本を重点的に収集し、中・高校生の利用促進を図った。 ●リクエストを受けた未所蔵の資料について、購入や相互貸借などにより、速やかに用意するよう努めた。 	A	<p>YA世代に向けた資料の収集・提供については、書棚の位置や本の並べ方に工夫が見られることなどを評価したい。</p> <p>迅速な資料の収集・提供には、利用者の要望の反映とともに、図書館の視点による選定も大切である。引き続き、良質な図書を選定と、児童書を含めた迅速な資料の収集・提供に努めていただきたい。</p>
	イ 資料費を有効に活用し、図書資料の充実を図り、利用者に提供します。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●合同選定会議・館内選定会を実施し、多岐にわたる利用者の要望に応えた。 ●「千葉市図書館資料収集方針」に基づき、効率的・計画的に各分野の新刊書などを購入し、利用者に提供した。 ●地区館・分館間で資料の一時移管による有効活用を図った。 ●寄贈図書の活用により、古くなった蔵書の入替えを行った。 	A	<p>図書館職員が主体的に選書を行い、総合的観点で体系的な蔵書構築に努めたことは評価できる。</p> <p>寄贈図書に多くを頼っているが、適正な蔵書の構成を維持するために必要な資料が整えられるよう、資料費の継続的な確保に努めていただきたい。</p>
	ウ 市民の財産である資料を適正に管理、保存します。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●各図書館で定期的に蔵書点検を実施した。 ●除籍資料選定委員会での適切な除籍(*1)や同じタイトルの資料は必ず1冊は保存するなど、資料の適正な管理と保存を行った。 ●利用者のマナー向上に向け、パンフレットの配布、館内掲示、汚破損資料の展示等を行うとともに、延滞している資料について、繰り返し電話等で督促を行い返却を促した結果、延滞件数は減少した。 	A	<p>延滞件数の減少については評価する。</p> <p>蔵書点検等を着実に実施し、利用者のマナー向上については、引き続き展示や掲示などによる対応を望む。</p>
	エ 新刊図書をはじめ、平成23年度に「住民生活に光をそそぐ交付金」を活用して整備した学校向け団体貸出図書、大活字本などの子どもや高齢者・障害者向けの資料、及び専門書やシリーズ本などの継続収集を含め、計画的な資料収集により、利用者の要望に応えます。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●「住民生活に光をそそぐ交付金」を活用して購入した年版本やシリーズ本は更新するなど、利用者に新しい本を提供した。 ●同交付金を活用した団体貸出用資料の充実を図るとともに、学校からの要望を受け、学校用セット貸出資料を拡充し、利用促進を図った。 	A	<p>団体貸出用の学校用セットの充実は評価する。</p> <p>年版本は、今後も継続して更新していただきたい。</p>

<p>オ 館内表示の改善や利用マナー向上の呼びかけなどにより、利用しやすい図書館環境づくりに努めます。(全館)</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ●施設内への貼り紙掲示(「雨天時のタイル滑りの注意」、「利用者以外の駐車厳禁」等) ●書架サインや案内表示を、わかりやすく、使いやすくなるよう一新 ●館内案内図の見直し ●利用者用検索機からプリントアウトする資料情報票の見方の説明を、各検索機に貼り出し ●児童室の照明の増設 ●ベストセラー書架の面展示の実施 ●図書館ギャラリーをリニューアルし、様々な展示を新たに実施。 ●雑誌の配列の見直し ●居心地の良い環境整備のため、季節ごとに館内掲示を変更 ●本を探しやすいよう、書架の本を適正な量に削減 ●研究個室等の館内に、利用マナー向上を促すサインの掲示 ●配布用の図書館カレンダーに利用マナーを掲載 ●利用マナー向上キャンペーンの実施 ●資料の切り抜きなどが引き続き見られることから、マナー向上に対しては更に対策を図る必要がある。 	<p>A</p> <p>館内表示についてはかなり工夫が見受けられ、わかりやすくなったが、まだ館によって対応の違いがある。各館の実情に合わせた環境整備を図書館職員が主体的に推進することは重要なことである。不断の努力による改善を期待する。 利用マナーについては基本的に利用者側の問題であると考え、図書館として様々な対策がなされ、少しずつ向上していることから、引き続き啓発をお願いしたい。</p>
<p>カ 施設を的確に安全管理するとともに、防災体制を整えます。(全館)</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ●非常口の案内表示・消火器の設置・書架の転倒防止措置の再点検を実施した。 ●防災訓練を実施し、避難・誘導等について確認した。 ●緊急時の即時対応を図るため、カウンター内に「防災用具」を保管した。 ●危機管理マニュアルを作成し、全職員に周知した。 	<p>A</p> <p>利用者の安全を最優先に考えた取り組みを評価する。図書館側の取り組みの強化とともに、利用者も参加する防災訓練等の実施についても検討していただきたい。</p>
<p>キ 移動図書館車による、図書館サービスを提供します。(中央館)</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市内27か所のステーションを月2回巡回し、貸出、返却、予約受付等を実施した。 *ステーション巡回数:610回(前年比△2回) 貸出冊数:67,767冊(前年比△5,228冊) 	<p>B</p> <p>利用冊数が減少しているのが懸念されるが、固定館の利用が困難な市民にとっては、有効なサービスであり、毎回の移動図書館車の運行を評価する。 ステーション設置場所の見直しなど、今後も利用の活性化に努めていただきたい。</p>
<p>ク 図書館業務に関する専門研修を実施し、職員の業務水準を向上させます。 * 図書館職員初任者研修 (中央館) * 図書館職員全体研修会 (中央館) * レファレンス・スキルアップ研修 (中央館) * 新任児童職員研修会 (全館) * 障害者サービス職員研修会 (中央館)</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ●職員のスキルアップを図るため、障害者サービス、レファレンスサービス(*2)及びおはなし会(*3)等の専門研修(非常勤職員も含む。)を実施した。 ●非常勤職員を含め、より多くの職員の参加を促す必要がある。 	<p>B</p> <p>職員のスキルアップは、サービスの質を担保するためには不可欠なことである。非常勤職員も含めたより多くの職員を対象に、継続的な研修の実施を望む。 レファレンスは、利用者が満足できるようなものとなるよう、実践に活用できるような研修を実施していただきたい。</p>
<p>ケ 接遇研修等を実施することにより、職員の業務水準を向上させます。(全館)</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ●非常勤職員(*4)も含めた、職員全体を対象とする接遇研修を実施した。 ●館内会議等を通じて、接遇能力の向上やスキルアップにつながる情報の共有を図った。 ●窓口の応対に係る苦情などが引き続き見られることから、更なる業務水準の向上を図る必要がある。 	<p>B</p> <p>窓口対応が業務の中心となる図書館サービスでは、接遇の技術は基本的な能力であり、職員全員に対して不断の研修の実施を望む。特に、業務への慣れによって接遇がなござりになることがあるので、注意が必要である。 図書館に対するクレームも増えてきており、クレーム処理に対する専門研修も必要である。</p>

<p>コ 公民館図書室に対する選書、レファレンス、研修等の支援を行います。(全館)</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ●公民館図書室の初任者向けの研修会を開催した。 ●公民館図書室に対する、選書、レファレンス、相互貸借による資料提供のための支援を行った。 ●月1回の連絡会等において連絡を密にとり、各種相談対応や情報提供などの支援を行った。 ●非常勤職員を含め、より多くの職員の参加を促す必要がある。 	<p>C</p> <p>図書館のない地域にとって、公民館は無くてはならない施設となっている。利用者が公民館図書室において図書館と同じサービスを受けられるよう、職員に対する図書館業務に係る研修等の充実を望む。</p> <p>公民館図書室への支援は図書館が担っていることから、将来的に図書館が管理する組織と位置づけるなど、責任ある対応が必要である。</p>
---	---	--

(2) 多様な媒体による情報提供のための環境整備

<p>取組項目</p>	<p>ア 正確な情報提供のための有料データベース等の活用や、電子図書等の収集と提供のあり方について、引き続き検討します。(中央館)</p>	<p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> ●有料データベースについては、必要な経費が確保できなかったため、引き続き検討する。 ●電子図書については、図書館が購入可能な出版点数がまだ少なく、出版が一部の出版社に片寄っていること、国立国会図書館が所蔵資料のデジタル化を進めていることなどから、引き続き状況を見ながら検討する。 	<p>C</p> <p>有料データベースは、今やレファレンスサービス等に不可欠な情報源となっている。また国立国会図書館が電子化した資料を図書館を経由して公開することを予定されており、それを踏まえ、適切な対応が必要である。</p> <p>電子資料の必要性や費用対効果について、前向きに検討を進め、優先的に予算を確保していただきたい。</p>
	<p>イ 館内公衆無線LAN(*5)環境の整備等について、引き続き検討します。(中央館)</p>	<p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> ●読書環境整備計画(仮称)骨子への「無線LAN(Wi-Fi)の導入」を位置付けた。 ●携帯電話会社が提供している無料Wi-Fi基地局を設置することにより前倒しでの整備ができないか検討している。 	<p>C</p> <p>無線LAN環境の整備は不可欠な時代となっているため、環境整備に向けた早急な対応を望む。</p>
	<p>ウ 視聴覚資料の収集、提供、保存のあり方や、新しい情報媒体への対応について、引き続き検討します。(中央館)</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ●DVD・CDを中心とした視聴覚資料の購入を進め、資料を充実させた。 ●新しい情報媒体については、世帯への普及率や市場動向など、引き続き状況を見ながら検討する。 	<p>B</p> <p>視聴覚資料の充実については評価する。</p> <p>視聴覚資料サービスは、メディアの変化が激しく、CATV視聴やオンデマンド配信等の普及状況を考慮し、図書館におけるサービスのあり方について、抜本的な見直しを検討する必要もある。</p>

	評価指標	達成目標	平成24年度実績	達成状況	平成23年度実績	平成22年度実績	備考
1-1	市民一人当たり貸出数及び総貸出数	対前年度比増	一人当たり 5.2冊	未達成 (前年比0.2冊減)	一人当たり 5.4冊	一人当たり 5.4冊	1年間に市民が借りて利用した資料数(公民館図書室での貸出を含む)を人口で割った冊数及び総貸出数 24年度 総貸出数 503万冊 23年度 総貸出数 523万冊 22年度 総貸出数 525万冊
1-2	WEB予約件数	対前年度比増	92.0万件	未達成 (前年比0.3万件減)	92.3万件	85.0万件	図書館ホームページからの予約状況
1-3	年間受入図書資料数	現状維持	59,585冊	未達成 (前年比9,160冊減)	68,745冊 (うち「住民生活に光を注ぐ交付金」による購入数: 20,166冊)	46,741冊	千葉市図書館が、市民の利用に供するために受入した図書の冊数(購入、寄贈、製作) 24年度 うち購入36,624冊 寄贈22,793冊(うち郷土資料3,502冊) 23年度 うち購入48,527冊 寄贈20,116冊(うち郷土資料4,235冊) 22年度 うち購入26,204冊 寄贈20,366冊(うち郷土資料4,117冊)
1-4	職員を対象とした図書館業務に関する研修の実施・参加回数及び受講者数	現状維持	127回 延べ528人	未達成 (前年比8回、延べ29人減)	135回 延べ557人	120回 延べ600人	千葉市図書館において開催及び千葉市図書館職員(非常勤嘱託職員・非常勤職員(*6)含む)が参加した、図書館業務に関する研修回数及び受講者数

内部評価

【評価】

- 利用者の要望などを反映させた資料の充実を行ったほか、資料の適正な管理と保存を行った。
- 市民一人当たり貸出数及び総貸出数、WEB予約件数、年間受入図書資料数について、目標を達成できなかった。
- 寄贈図書を活用し、古くなった蔵書の入替えを行った。
- 団体貸出用資料の充実を重点的に図るなど、資料費を有効に活用した。また、マナー啓発等を積極的に実施し、延滞件数の減少につなげるなど、資料の適正な管理を行った。

【課題】

- 図書館利用の増に向けて、図書館未利用者への利用啓発、有料データベース等の活用、館内公衆無線LAN環境の整備などの課題がある。
- 新刊資料を、引き続き充実する必要がある。
- 資料の切り抜きなどが引き続き見られることから、マナー向上に対しては更に対策を図る必要がある。
- 非常勤職員を含め、より多くの職員の参加を促す必要がある。
- 窓口の対応に係る苦情などが引き続き見られることから、更なる業務水準の向上を図る必要がある。

【方針】

- 資料の充実を図るため、資料費予算の確保に努める。
- 予約多数本の寄贈を引き続き呼びかけるなど、寄贈図書の有効活用を努める。
- ICT化への対応について、読書環境整備計画(仮称)を策定する中で、引き続き検討する。

外部評価

【評価】

- ・図書館職員が主体的に選書を行い、総合的観点で体系的な蔵書構築に努めたことは評価できる。特にYA世代に向けた資料の収集・提供については、書棚の位置や本の並べ方に工夫が見られることなどを評価したい。
- ・館内表示についてはかなり工夫が見受けられ、わかりやすくなった。
- ・利用マナー向上の取り組みや利用者の安全を最優先に考えた取り組みを評価する。

【課題】

- ・貸出冊数減少の分析が必要である。
- ・迅速な資料の収集・提供には、利用者の要望の反映とともに、図書館の視点による選定も大切である。引き続き、良質な図書の選定と、児童書を含めた迅速な資料の収集・提供に努めていただきたい。
- ・寄贈図書に多くを頼っているが、適正な蔵書の構成を維持するために必要な資料が整えられるよう、資料費の継続的な確保に努めていただきたい。
- ・館内展示は、館によって対応の違いがある。各館が歩調を合わせ、サービス向上のための環境整備を進めてもらいたい。
- ・利用者も参加する防災訓練等の実施についても検討していただきたい。
- ・職員のスキルアップは、サービスの質を担保するためには不可欠なことである。非常勤職員も含めたより多くの職員を対象に、継続的な研修の実施を望む。レファレンスは、利用者が満足できるようなものとなるよう、実践に活用できるような研修を実施していただきたい。
- ・図書館に対するクレームも増えてきており、クレーム処理に対する専門研修も必要である。
- ・図書館のない地域にとって、公民館は無くてはならない施設となっている。利用者が公民館図書室において図書館と同じサービスを受けられるよう、職員に対する図書館業務に係る研修等の充実を望む。また、公民館図書室への支援は図書館が担っていることから、将来的に図書館が管理する組織と位置づけるなど、責任ある対応が必要である。
- ・無線LAN環境の整備や有料データベースの活用は不可欠な時代となっているため、環境整備に向けた早急な対応を望む。また、国立国会図書館が電子化した資料を図書館を経由して公開することが予定されている。これを踏まえ、適切な対応を望む。また、電子資料の必要性や費用対効果について、前向きに検討を進め、優先的に予算を確保していただきたい。
- ・視聴覚資料サービスは、メディアの変化が激しく、CATV視聴やオンデマンド配信等の普及状況を考慮し、図書館におけるサービスのあり方について、抜本的な見直しを検討する必要がある。

【方針2】課題を解決するためのサービスに取り組みます

(1)レファレンスサービスの充実		内部評価	取組結果	外部評価	外部評価者のコメント
取組項目	ア レファレンスサービスの利用を促進し、市民の課題解決を支援します。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●図書館ホームページ及びFacebookにおいて、レファレンスサービスのPR等を実施した。 ●図書館ホームページからのメールレファレンスに対して、資料提供等によるサービスを実施した。 ●レファレンス案内の館内掲示による、利用者への周知を図った。 	A	<p>SNSなど様々な手法による広報に努めたことにより、利用件数が増加していることや、案内表示の改善などの取り組みについては評価できる。なお、SNS活用については、公的な機関としての制約もあり、実施における効果や問題点の再評価をする必要がある。</p> <p>また、市民が望む課題解決に対応できているかどうか、検証が必要と思われる。PRIについては、図書館が課題解決の場でもあることを知らない人のために継続的な実施を望む。</p>
	イ 「調べ案内(パスファインダー)(*6)」などの提供内容を充実させます。(中央館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」にレファレンス事例を追加(13件)した。 ●図書館ホームページの「しらべかたのあんない(パスファインダー)」に事例を追加(2件)した。 ●教職員向け講座や出張授業で、提供内容を積極的に紹介し、使い方を説明した。 	B	<p>「レファレンス協同データベース」への登録は評価するものの、当該データベースの特徴を活かし、より多くの事例の登録を望む。</p> <p>また、パスファインダーについても、より多くの件数を追加するとともに、子ども向けや地域情報など、市民が求めている情報を的確につかみ、それに対するパスファインダーの充実を望む。</p> <p>来館した人もパスファインダーを活用できるよう、紙媒体によるパスファインダーの提供等、更なる工夫が必要である。</p>
	ウ 図書館のホームページ「調べもの相談」に、新たに「レファレンス事例集」を掲載します。(中央館)	C	<ul style="list-style-type: none"> ●図書館ホームページの「調べ物相談」に掲載するレファレンス事例の候補(案)を作成した。〔平成25年度中に掲載予定〕 	C	<p>千葉市に関連する独自の事例や、レファレンスに親しみのもてる事例の掲載なども検討し、公開していただきたい。</p>
	エ 図書館資料の検索講座等を実施し、市民の情報収集力・活用力の育成を支援します。(全館)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●展示に合わせたパスファインダーを作成し、利用方法を提供するなど、市民の情報収集力・活用力の育成を支援した。 ●利用者用検索機からプリントアウトする資料情報票の見方の説明を、各検索機に貼り出した。<<【方針1】(1)才再掲>> ●個人レッスン形式にて「館内OPAC」に「レッスンコース案内」を掲示し、「検索ミニレッスン」を開催した。 ●引き続き、パスファインダーの拡充を図る必要がある。 	C	<p>育成支援の取り組みは評価できるものの、利用者にその取り組みが周知されていないため、周知方法に工夫が必要である。</p> <p>検索機のそばに人を配置するなど、日々の業務の中でのフォローも必要である。</p>
	オ 定期的な研修を実施し、担当職員のレファレンス技術を向上させます。(中央館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●地区図書館職員・嘱託職員(*7)を対象とした「レファレンススキルアップ研修」を実施(5回)した。 	B	<p>定期的な研修の実施は評価する。</p> <p>研修の成果が市民に還元される(利用者が満足する回答を得られる)よう、研修と実践を積み重ねる必要がある。</p>

(2)だれもが利用しやすい図書館サービスの展開

取組項目	ア 地域の実情や世代別のニーズ等を考慮した図書館サービスを拡充するとともに、図書館未利用者に対するPRを強化することなどにより、図書館利用者を増やします。(中央館)	B ●合同選定会議・館内選定会を実施し、多岐にわたる利用者からの要望に対応した。《【方針1】(1)イ再掲》 ●利用促進を図るため、中・高校生向けの本や科学の本を重点的に収集した。《【方針1】(1)イ再掲》 ●市政だよりや図書館だより、図書館ホームページやFacebookページ等の活用による、図書館事業に関する情報を発信した。 ●図書館未利用者へのPRのため、公民館・区役所などを通じた各事業のお知らせを配布した。 ●新規利用者の発掘のため、YA(*8)コーナーのリニューアルやコンピューター関連本コーナーの新設、就労支援コーナーの継続等を実施した。 ●来館者は減少傾向にあることから、引き続き、図書館未利用者へのPRについて、検討する必要がある。	B YAサービスの実施など、新たな取り組みがなされ、PRの強化により新規登録者数が増加したことは評価する。 図書館利用者が減少傾向にあることから、根本的な原因が何であるのか分析し、分析結果に基づいて、PR方法を工夫する必要がある。
	イ 中央図書館に、新たにビジネス支援コーナーを設置します。(中央館)	A ●ビジネス支援コーナーを設置した。 〔内訳：①参考図書コーナー(統計書・白書・ビジネス関連パンフレット等を配架)、②展示図書コーナー(ビジネス書の展示を年4回実施)〕	A コーナーの設置そのものが、利用者に対するビジネス支援サービスのアピールにもつながり、評価できる。 ただし、サービスはコーナー設置のみでできるものではない。そこで実施されるサービスの内容に左右されるため、引き続き職員の積極的な関与を期待したい。
	ウ 経営・就職関連資料の提供や、関連情報の発信等の、ビジネス支援サービスを強化します。(中央館)	A ●新たに設置したビジネス支援コーナーにおいて、経営・就職関連資料の提供や情報発信等のビジネス支援サービスを開始した。 ●千葉市の元気企業を紹介するとともに、その経営者によるビジネス支援講座を開催した。	B コーナーの資料の充実や講座の開催など、取り組みが進んでいることについては評価できるが、具体的な成果が確認できない。 図書の展示などは、そのままビジネス支援につながらない可能性もあるため、検証をお願いしたい。
	エ 高齢者や、図書館利用に障害のある利用者に対するサービスを拡充します。 * 郵送貸出(中央館) * 宅配サービス(地区館) * 対面音訳(*9)(中央・みやこ・花見川・稲毛・緑) * 録音資料、点訳絵本の作成(中央館)	B ●高齢者向けに大活字本の充実を図ったほか、宅配サービスを実施した。 ●障害者向け点訳絵本を作成し充実を図ると共に、体験学習等において、点訳絵本の作成を実施した。 ●サピエ(*10)図書館の活用等による、録音図書の充実を図る必要がある。	B 図書館が行う基本的なサービスであり、その充実に努めている点は評価する。 懇談会の開催などにより、利用者の要望を把握し、サービスの充実に努めてもらいたい。 なお、サピエの活用は早急な実施を望む。
	オ よりよい障害者サービスの実施のために、職員・音訳協力者向けの研修会や、点字体験の場を設けます。(中央館)	A ●障害者サービス担当職員のスキルアップのための研修会及び音訳協力者向けの研修会を実施した。 ●小・中学生向けの点字体験を、夏休み期間や子ども読書まつりにおいて実施した。	A 職員・音訳協力者向けの研修会や、点字体験の場が充実しており、評価する。
	カ 図書館に来館することが困難な高齢者に対するサービスとして、高齢者施設への図書の貸出の事業化に向けた準備を進めます。(中央館)	C ●高齢者施設への団体貸出に向けた準備を行ったが、貸出に適した資料が少なく、また、受入を希望する施設側の課題もあり、実施には至らなかった。 ●高齢者施設に対する、不用雑誌の無料配付(2回)を実施した。	C 受入側とのミスマッチの原因を分析し、適切な情報提供を模索する必要がある。寄贈本の有効活用など、貸出団体の管理負担の削減などの工夫が必要である。 このサービスのための予算確保も必要である。
	キ 外国語資料の収集・提供等、多文化サービス(*11)を拡充するとともに、サービスのPR等により利用を促進します。(中央館)	B ●外国語資料の充実を図ると共に、外国語資料の企画展示を実施(3回)した。 ●外国語によるおはなし会を実施した。 ●更なるサービスのPRを行い、利用促進につなげる必要がある。	B 企画展示やおはなし会の開催については評価するが、更なる充実を望む。

ク 図書館・公民館図書室以外での図書館資料の受け渡し場所の設置について、引き続き検討します。(中央館)	C	<ul style="list-style-type: none"> ●読書環境整備計画(仮称)を策定する中で検討した。 <ul style="list-style-type: none"> ・駅等への返却ポスト等の設置 ・図書館以外の読書施設との連携 	C	利用者ニーズやサービスの優先順位・効果も検証し、引き続き検討する必要がある。
ケ 地域の実情に即し、開館日等の見直しについて、引き続き検討します。(全館)	C	<ul style="list-style-type: none"> ●開館日等の拡大に向けた、必要な予算や人員の確保などの課題を踏まえた検討を行った。 ●新たな経費がかからない取組として、職員は出勤しているが休館としている、年末年始及び特別整理期間の短縮が前倒しで実施できないか検討した。(25年度実施予定) 	C	利用者ニーズやサービスの優先順位・効果も検証し、引き続き検討する必要がある。 地域の状況に応じた、柔軟な運営も必要である。

	評価指標	達成目標	平成24年度実績	達成状況	平成23年度実績	平成22年度実績	備考
2-1	レファレンス受付数	対前年度比増	87,525件	達成 (前年比516件増)	87,009件	89,243件	市民から、図書館窓口・電話・メールにより、必要な資料について問い合わせを受けた件数
2-2	新規登録者数	対前年度比増	20,648人	達成 (前年比1,570人増)	19,078人	21,046人	新たに登録した図書館利用者の数(公民館図書室での登録者を含む)
2-3	来館者数	対前年度比増	276.4万人	未達成 (前年比7.2万人減)	283.6万人	294.7万人	館内での閲覧利用も含め、図書館に来館した利用者の延べ人数
2-4	年間貸出利用者率	対前年度比増	市民の15%	達成 (前年比1%増)	市民の14%	市民の15%	1年間に、図書館を利用した市民の割合(世代別・性別利用者統計も出し、利用者層を分析する)
2-5	図書館利用に障害のある方への情報提供	対前年度比増	対面音訳件数100件 貸出冊数8,705点	未達成 (前年比27件、494点減)	127件 9,199点	102件 9,221点	対面音訳による情報提供件数、貸出冊数(自宅配本(*12)・郵送貸出を含む)

内部評価

【評価】

- 図書館ホームページの「調べ物相談」等において、掲載項目の拡充を図るなど、レファレンスの活用について広報に努め、受付数の増につなげた。
- 中央図書館に新たに「ビジネス支援コーナー」を設置し、ビジネス支援サービスを開始するなど、だれもが利用しやすい図書館サービスの展開を進めた。
- 職員向けに定期的な研修を実施し、研修内容をレファレンスサービスの充実や、館内表示の改善につなげることができた。

【課題】

- レファレンスサービスについての認知度はアンケート調査では決して低くないが、利用する人はまだ限られていることから、利用しやすい環境づくりが必要である。
- 引き続き、パスファインダーの拡充を図る必要がある。
- 来館者は減少傾向にあることから、引き続き、図書館未利用者へのPRについて、検討する必要がある。
- 外国語資料の提供等、多文化サービスについては、利用が進んでいないことから、更なる資料の充実やサービスのPRを行い、利用促進につなげる必要がある。

【方針】

- ホームページやFacebook等によるPRをさらに充実させ、図書館未利用者へのPRの強化を図る。
- 大活字本の更なる充実や、サピエ図書館の活用等による録音図書の充実を図り、高齢者や図書館利用に障害のある利用者に対するサービスを充実させる。
- レファレンスカウンターの作り方などを工夫し、気軽に利用できる環境づくりに努める。

外部評価

【評価】

- ・レファレンスサービスに対してのSNSの活用やホームページでの「調べ物案内」の公開、あるいは案内表示の改善など様々な手法で広報に努めたことによって利用件数が増加していることを評価する。また定期的なレファレンス研修の実施も評価したい。
- ・YAサービスの実施など、新たな取り組みがなされ、PRの強化により新規登録者数が増加したことは評価する。
- ・ビジネス支援コーナーの設置そのものが、利用者に対するビジネス支援サービスのアピールにもつながり、評価できる。
- ・職員・音訳協力者向けの研修会や、点字体験の場が充実しており評価できる。
- ・多文化サービスにおける企画展示やおはなし会の開催についても評価したい。

【課題】

- ・レファレンスサービスによって市民が望む課題解決に対応できているかどうかの検証が必要である。レファレンスサービスを知らない利用者も多い。継続的なPRの実施を望む。
- ・ホームページに千葉市に関連する独自の事例や、レファレンスに親しみもてる事例の掲載なども検討し、公開していただきたい。
- ・「レファレンス協同データベース」への登録は評価するものの、当該データベースの特徴を活かし、より多くの事例の登録を望む。また、パスファインダーについても、より多くの件数を追加するとともに、子ども向けや地域情報など、市民が求めている情報を的確につかみ、それに対するパスファインダーの充実を望む。来館した人もパスファインダーを活用できるよう、紙媒体によるパスファインダーの提供等、更なる工夫が必要である。
- ・レファレンス研修の成果が市民に還元される(利用者が満足する回答を得られる)よう、研修と実践を積み重ねる必要がある。
- ・市民の情報活用育成支援の取り組みは評価できるものの、利用者とその取り組みが周知されていないため、周知方法に工夫が必要である。検索機のそばに人を配置するなど、日々の業務の中でのフォローも必要である。
- ・ビジネス支援サービスは、コーナー設置のみでできるものではない。、そこで実施されるサービスの内容に左右されるため、引き続き職員の積極的な関与を期待したい。
- ・図書館資料の新たな受け渡し場所や開館日の見直しについては、利用者ニーズやサービスの優先順位・効果も検証し、引き続き検討する必要がある。

【方針3】 図書館から積極的に情報を発信します

(1)ホームページ等からの情報発信		内部評価	取組結果	外部評価	外部評価者のコメント
取組項目	ア 利用者のニーズに適応した情報提供を行い、図書館の利用を促進するため、図書館ホームページを運営するとともに、コンテンツの拡充などにより積極的な情報発信を図ります。(全館)	A	●図書館ホームページへ、「ビジネス情報」を新たに掲載するなど、コンテンツの一層の充実を図った。	B	図書館ホームページのコンテンツの充実や、デザイン・構成の見直しについては評価する。 ホームページは、図書館業務において不可欠なサービスとなっており、見て楽しく、図書館に足を運びたいようなホームページとなるよう、より一層の充実が望まれる。
	イ 平成24年3月のホームページのリニューアルに合わせて、新たなコンテンツとして立ち上げた「図書館NOW!」では、時節の話題や中央図書館で実施している企画展示などを取り上げ、さらに掘り下げた情報提供を行っていますが、今後は地区図書館の企画展示を取り上げるなど、さらに内容を充実させます。(中央館)	B	●「図書館NOW!」では、時節の話題(アカデミー賞、iPS細胞)や興味関心の高い事柄(東京駅リニューアル、楽しく生きるヒント)などを中心に情報提供した。 ●掲載情報の更なる拡充、更新を図る必要がある。	B	「図書館NOW!」という新たな掲載情報の試みについては評価できる。 利用者の反応が弱く感じられることから、市民の希望やアイデアを取り入れた企画を行うなど、より多くの人に図書館に関心を持ってもらう工夫が望まれる。
	ウ 千葉市の地域・行政資料(*13)や地域情報等の千葉市関連資料を積極的に収集し、体系的に整理、保存して提供します。また、これらの情報をホームページ等から発信します。(全館)	A	●千葉市の地域・行政資料や地域情報等の千葉市関連資料の積極的な収集・保存を行った。 ●電子化された資料は紙媒体化に努め、市民に提供した。 ●収集した行政資料については「千葉市行政資料目録」を作成し、ホームページで情報を提供した。 ●職員の効率的なレファレンス対応を図るため、「千葉市史」の検索データベースを作成した。	A	行政資料や地域資料の収集・整理・保存、そして提供は図書館の根本的な業務であり、積極的な対応を評価する。郷土資料のデジタル化の試みについても、評価したい。 「千葉市史」の検索データベースは、公開に向けた検討を期待する。
	エ ICT(情報通信技術)を活用した新たな情報提供サービスについて、検討します。(中央館)	C	●読書環境整備計画(仮称)骨子への位置付けを行った。 ・無線LAN(Wi-Fi)の導入<<【方針1】(2)イ再掲>> ・郷土資料のデジタル化(一部実施) ・電子書籍への対応 ・タブレット活用の検討	C	ICTの活用は不可欠であり、早急な実施を望みたい。
	オ ソーシャル・ネットワーク・サービス(SNS)(*14)による情報提供を行います。(中央館)	A	●FacebookページをH24年7月に開設、迅速かつ頻繁に情報を掲載した。	A	Facebookの活用については評価する。 実施後の効果や問題点についての検証が必要である。

(2) 出会いのある図書館利用の促進

取組項目	ア 各種講座については、市民の関心の深いテーマを選定するとともに、関係機関との連携などにより関連する企画展示を同時期に実施するなど、図書館の利用促進につながる内容とするため、さらなる工夫を図ります。 * 図書館市民講座(全館) * 郷土史講座、文学講座(地区館)	B	●地域の子育て世代にコミュニケーションを図る場の提供・支援を図るため、定例おはなし会やわらべうたの会等を実施した。 ●読書活動の普及・啓発のため、図書館市民講座を開催した。 (「身近な気象と減災」、市民防災講座「直下型地震に備えて」、市民防犯講座「地域の安心・安全～防犯力を高めよう～」、郷土文学講座「浅田次郎と千葉県」、「やさしい生命保険のしくみ」、美術講座「文人画再発見!」等) ●講座の魅力をより一層高め、参加者の増加につなげる必要がある。	B	定例おはなし会やわらべうたの会の実施、市民講座の実施による利用の啓発は、評価する。 図書館における市民講座は、会場に関連書籍を展示するなど図書館資料を活用し、読書活動の推進や図書館の利用を推進するための催しとなることが望ましい。 参加率の低い講座もあり、市民ニーズの把握も必要とされる。 また、講師の人材発掘や、市民との協働など、積極的に地域に目を向ける姿勢が必要である。
------	---	---	--	---	---

<p>イ 図書館資料の広がりや豊かさを実感してもらい、資料への関心と理解を促すため、企画展示を実施します。(全館)</p>	A	<p>●各館所定のコーナーを使用し、企画展示を実施した。 (「過去10年のベストセラー」、芥川賞・直木賞・本屋大賞などの過去の受賞作品の紹介、小学生を対象とした参加型展示「図書館クイズ」等)</p>	A	<p>企画展示については、各館とも内容が充実し、来館者の関心を引くものとなり評価する。優れた企画展示もあり、各館で巡回展示などが行われることを望む。</p>
<p>ウ 図書館の利用を促進するため、出前講座をはじめとした地域での広報活動を積極的に展開します。 * 市政出前講座(*15)の受付 (中央館) * 著作権セミナーの開催 (中央館)</p>	B	<p>●「図書館を上手に使いこなそう」をテーマとした、市政出前講座を実施した。 ●文化庁及び千葉県との共催による「著作権セミナー」及び分科会を開催した。 (H25年1月 会場:千葉県生涯学習センター) ●出前講座の利用を増やすため、更なるPRに努める必要がある。</p>	B	<p>実施については評価するものの、出前講座等の開催件数(1回)がまだ少ない。 また、図書館活用の広報が自己満足に終わらないよう、幅広い広報活動の工夫と展開を望みたい。</p>
<p>エ 各種メディアを活用し、効果的な広報活動を実施します。 * 「図書館だより」の発行 (中央館) * 「市政だより」へのおはなし会イベント等の掲載 (全館)</p>	A	<p>●秋の読書週間にあわせて「市政だより」10月15日号の1面全面を使用し、図書館の利用促進に関する啓発を行った。 ●「図書館だより」にレファレンス事例を毎号掲載したほか、ホームページやFacebookによる広報を実施した。 ●図書館未利用者へのPRのため、公民館・区役所などを通じた各事業のお知らせを配布した。《【方針2】(1)ア再掲》 ●地域広報誌に事業の案内を掲載した。 ●地区内小学校への利用啓発を行った。</p>	A	<p>「市政だより」1面で、秋の読書習慣にあわせた図書館利用に関する広報を行うなど、積極的な対応を評価する。 「教育だより」など各種メディアの活用や、おはなし会以外の図書館利用案内の掲載、チラシの配布先・配布方法の工夫など、更なる拡充を期待したい。</p>

	評価指標	達成目標	平成24年度実績	達成状況	平成23年度実績	平成22年度実績	備考
3-1	地域・行政資料の収集冊数	現状維持	4,027冊	未達成 (前年比923冊減)	4,950冊	4,485冊	千葉市、千葉県に関する資料の年間収集冊数(紙媒体)
3-2	一般向き図書館講座の開催回数及び参加者数	対前年度比増	29回 1,851人	達成 (前年比7回、175人増)	22回 1,676人	25回 1,358人	一般市民を対象とした図書館講座等の開催回数及び参加者数

内部評価

- 【評価】
- 図書館ホームページへ、新たに「ビジネス情報」を掲載するなど、コンテンツの一層の充実を図り、積極的な情報発信に努めた。
 - Facebookページを開設し、迅速かつ頻繁に記事を投稿するなど、新たな層への情報発信を進めた。
 - 郷土資料のデジタル化に着手するなど、郷土資料のICT化を推進した。
- 【課題】
- 来館者数・貸出者数の減少傾向が続いていることから、普段、図書館を利用していない人たちに図書館の有効性や魅力をアピールし、行事への参加も含めた図書館利用を引き続き促していく必要がある。
 - 図書館ホームページ掲載情報の更なる拡充、更新を図る必要がある。
 - 各種講座の魅力をより一層高め、参加者の増加につなげる必要がある。
 - 出前講座の利用を増やすため、更なるPRに努める必要がある。
- 【方針】
- 市民講座や出前講座など、各種講座を引き続き積極的に開催し、普段、図書館を利用していない人たちへの来館を促すとともに、講座の魅力をより一層高めることにより、参加者の増加につなげる必要がある。
 - インターネットを使えない人もいるため、ホームページだけでなく、紙媒体等による利用PR等についても引き続き行う。
 - 行政資料については、図書館ホームページコンテンツの充実など、ICTの活用に努める。

外部評価

- 【評価】
- ・ 図書館ホームページのコンテンツの充実や、デザイン・構成の見直し、特に「図書館NOW!」という新たな掲載情報の試みについては評価する。
 - ・ 行政資料や地域資料の収集・整理・保存、そして提供は図書館の根本的な業務であり、積極的な対応を評価する。地域資料のデジタル化の試みについても評価したい。
 - ・ 定例おはなし会やわらべうたの会の実施、市民講座の実施による利用の啓発は、評価する。
 - ・ 企画展示については、各館とも内容が充実し、来館者の関心を引くものとなっており評価する。
 - ・ 「市政だより」1面で、秋の読書習慣にあわせた図書館利用に関する広報を行うなど、積極的な対応を評価する。
- 【課題】
- ・ ホームページは、図書館業務において不可欠なサービスとなっており、見て楽しく、図書館に足を運びたいくなるようなホームページとなるよう、より一層の充実が望まれる。
 - ・ ICTの活用は不可欠であり、早急な実施を望みたい。
 - ・ 各種講座の開催では、参加率の低い講座もあり、市民ニーズの把握も必要とされる。また、講師の人材発掘や、市民との協働など、積極的に地域に目を向ける姿勢が必要である。
 - ・ 企画展示の中には、優れた展示もあり、各館で巡回展示などが行われることを望む。
 - ・ 「教育だより」など各種メディアの活用や、おはなし会以外の図書館利用案内の掲載、チラシの配布先・配布方法の工夫など、更なる拡充を期待したい。

【方針4】 子どもの読書活動を推進します

(1) 児童・青少年向けサービスの深化と拡充		内部評価	取組結果	外部評価	外部評価者のコメント
取組項目	ア 子どもが知的好奇心を満たすことのできる本と出会えるよう、資料の紹介や展示、相談等を行います。 * ブックリストの作成・配布（全館）	A	<ul style="list-style-type: none"> ●児童書の企画展示を行うとともに、レファレンスサービスの充実を図った。 ●ブックリスト「よんでみよう」を図書館見学、中学校でのブックトーク(*16)実施時に配布し、本を紹介した。 ●夏休みに向けた図書館担当職員のお薦め本のリストを作成・展示した。 ●小学生を対象とした参加型展示「図書館クイズ」を実施した。《【方針3】(2)イ再掲》 	B	企画展示や相談に対する積極的な対応は評価できる。ただし、児童書の貸出冊数は減少していることから、サービスに対する実績や効果について検証し、対応する必要がある。ブックリストは、新しい本も取り入れ、内容を更新する必要がある。
	イ YAコーナーをさらに充実させ、中・高校生の利用を促進します。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●YAコーナーのリニューアルによる充実を図った。 ●中・高校生の利用促進を図るため、YAコーナーにおけるテーマ展示を実施した。 ●中・高校生に好きな作家・作品のアンケートを取り、選書に反映させた。 	A	YAコーナーの設置など、中・高校生向けサービスの実施については評価する。今後の利用促進に向け、アンケートによる選書などを引き続き実施し、中・高校生が魅力を感じるような資料の充実、情報の発信を期待する。また館によってサービスのばらつきがあるため、各館が積極的な取り組みを行うことを期待する。
	ウ 児童コーナーでもテーマを決めた企画展示を行い、絵本・お話の本だけでなく、科学などの読み物についても積極的に紹介し、子どもと本との出会いの場を演出します。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●児童書コーナーでの企画展示を実施した。 ●「科学の本」のコーナーを新設し、定期的にテーマを変えて展示した。 	A	子どもたちに関心のあるテーマを選定し、より充実した実施を期待する。
	エ 子どもの読書の関心を高めるため、おはなし会等を年齢別・対象別に実施します。 * 定例おはなし会（全館） * わらべうたと絵本の会（全館） * 子ども(高校生)が語るおはなし会（全館） * 親子おはなし会（全館）	A	<ul style="list-style-type: none"> ●各図書館で、定例おはなし会を毎週開催し、わらべうたと絵本の会を開催(月1回)した。 ●子ども読書まつりで、絵本や物語以外の資料を紹介した。 ●「高校生が語るおはなし会」や「外国語おはなし会」の拡充に努めたほか、平日の定例おはなし会に参加できない小学生に向けた「小学生土曜日おはなし会」を実施した。 	A	通常のおはなし会だけでなく、対象別や曜日別のおはなし会など、積極的な開催について評価する。
	オ 工作や科学あそび等を通じ、絵本や文学以外の資料の紹介も行います。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども読書まつりで、千葉市子ども科学館の協力を得て、工作や科学遊び等を実施した。 ●「オリジナル豆本づくり教室」や「科学教室」などを通じ、絵本や文学以外の資料を紹介した。 	A	子どもたちに関心のあるテーマを選定し、より充実した実施を期待する。
	カ 平成24年度は子ども読書まつりを「政令指定都市20周年記念事業」として位置付け、関係機関や学校、市民団体などとの連携により、魅力あるイベントを企画・実施します。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●「政令指定都市移行20周年記念事業」として、関係機関や学校、市民団体などと連携して子ども読書まつりを実施した。〔10月20日開催、実施イベント数:25、延べ参加者数:6,374人〕 ●近隣の大学と連携し、「外国語おはなし会」(英語・中国語の絵本の読み聞かせ)を実施した。 	A	市民の関心も高く、内容も充実しており評価する。更なる充実を期待する。
	キ 子どもたちが学校休業中やその前後に、身近な図書館で本や図書館に親しむためのイベントを実施します。 * 子ども一日図書館員（地区館） * こどもかるたあそび（中央・みやこ・花見川） * 科学あそび・映画会・図書館クイズなど（全館）	A	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもたちが学校休業中やその前後に、身近な図書館で本や図書館に親しむためのイベントを実施した。(親子図書館たんけんツアー、高校生が語るおはなし会、夏・冬の親子おはなし会等) 	A	子どもたちに関心のあるテーマを選定し、より充実した実施を期待する。

<p>ク 子どもの読書や図書館利用に関する一般向け講座や、親子参加事業を開催します。 * 子ども読書講座（中央館） * 読み聞かせ講座・入門編（中央館）、わらべうたと絵本講座（地区館） * 「子ども読書の日」記念事業（全館） * 親子図書館探検ツアー（中央館）</p>	A	<p>●子どもの読書や図書館利用に関する一般向け講座や、親子参加事業を開催した。 (子ども読書講座、読み聞かせ講座、地域おはなしボランティア(*17)養成講座第6期、わらべうたと絵本の会、「子ども読書の日」記念親子おはなし会、親子図書館たんけんツアー等)</p>	A	<p>親子で参加できるイベントや一般向け講座は需要も高く、積極的な実施について評価する。 継続的な実施を期待する。</p>
<p>ケ 子ども向けの図書館資料検索講座等、図書館利用に関する啓発事業の実施について検討します。(中央館)</p>	A	<p>●小学校へ出向いて検索講座や利用指導に関する授業を行う「出張授業」を開始した。 ●近隣小学校と連携した、図書館利用講座を実施した。(図書館に来館してもらい、学年に合わせた図書館利用、調べ学習の進め方や検索端末の利用方法等を案内)</p>	B	<p>図書館員が小学校等へ積極的に足を運ぶことは、たいへん重要であり、その中で行われる講座や利用指導の効果は高い。より積極的な実施を望む。 一部の近隣の学校だけではなく、すべての子ども達が利用講座を受けられるよう、より広域での実施が望まれる。</p>
<p>コ 内部研修や派遣研修等を行い、担当職員の知識・技能を向上させるとともに、講師としても育成します。(全館)</p>	B	<p>●児童担当の職員・非常勤嘱託職員に対する、読み聞かせやサービス提供についての研修を実施した。 ●中央館・地区館で協力して、学校や関係機関等に講師として派遣できる人材育成のための取組を開始した。 ●学校へ出向いて教職員へのブックトーク講座を実施した。 ●おはなしや読み聞かせ、パネルシアターの館内研修を実施した。 ●学校や関係機関へ派遣できる職員を増やす必要がある。</p>	B	<p>児童サービスに精通した職員の存在は、図書館サービスにとって不可欠であり、人材育成の取り組みについては評価する。 講師を務めることのできる人材が新たに育っていないことから、育成は急務であると考えます。</p>

(2) 学校・家庭・関係機関等との連携、協力

取組項目	<p>ア 千葉市子ども読書活動推進計画(第2次)の推進及び進行管理を行います。(全館)</p>	B	<p>●同計画に位置付けられた施策事業について、子ども読書まつりなど各種行事の充実を図った。 ●関係部局に対し、事業計画等の調査を実施し、進行管理を行った。 ●啓発・広報活動について、一層の充実を図る必要がある。</p>	B	<p>子どもの読書推進は保育園・幼稚園・学校・地域の文庫や子どもと本に関わる団体などと連携して進めないと効果は上がらない。図書館がそれらをつなぐ役割を担って欲しい。</p>
<p>イ 子ども読書活動推進会議を開催・運営します。(中央館)</p>	C	<p>●前項の関係部局に対する事業計画等の調査を実施することで代え、会議は開催しなかった。</p>	C	<p>図書館として積極的な働きかけを望みたい。</p>	
<p>ウ 学校と連携し、児童・生徒の図書館見学や職場体験を積極的に受け入れるとともに、図書館から学校に出向いて利用案内やおはなし会等も行います。 * 小中学校等の視察・見学、調べ学習受入（全館） * 職場体験受入(中学生)（全館） * ブックトーク(学校訪問おはなし会)（地区館）</p>	A	<p>●図書館見学や職場体験を積極的に受け入れた。 ●近隣の小学校や特別支援学校に地域おはなしボランティアを派遣し、おはなし会やブックトークを実施した。 ●小学校へ出向いて検索講座や利用指導に関する授業を行う「出張授業」を開始した。《【方針4】(1)ケ再掲》</p>	A	<p>子どもたちに図書館を知ってもらうことの意義は大きく、積極的な対応を評価する。 年齢に応じた見学内容の工夫や、分館での対応も含めた、図書館から離れた学校への支援など、多くの児童・生徒がサービスを受けられるよう更なる充実を期待する。</p>	
<p>エ 市内小中学校に対し、図書館資料の団体貸出を行います。(中央館)</p>	A	<p>●利用促進を促すため、団体貸出についての周知徹底を図った。</p>	A	<p>小中学校への支援は、学校教育に対する図書館の活動として極めて重要であり、評価する。 配送などの改善を図り、学校の近くまで図書を届けることができる団体貸出制度の実現など、更なる充実を期待する。</p>	
<p>オ 教育センター等と連携し、教職員の社会体験研修受け入れ、図書館利用案内、学校図書館指導員研修への協力などを行います。(全館)</p>	A	<p>●教育センターの「教職員社会体験研修」を受入れた。 ●教職員向けの講座や校内研修講師を務め、図書館利用や読書指導、おはなし会やブックトークについての講義や講演を実施した。</p>	A	<p>教職員に図書館の実態を知ってもらうことは、図書館に対する理解や、生徒への指導による利用促進にもつながる。積極的な対応を評価したい。</p>	

カ 子どもの読書活動推進を担う家庭・地域の団体等に対する図書の貸出と、活動への支援を拡充します。(全館)	A	●子どもの読書活動推進を担う家庭・地域の団体等に対する図書の貸出と、活動への支援を行った。 ●子どもたちの科学の本への関心を高めることができるよう、「子供の科学」元編集長を講師に招いて、地域文庫等研修会を開催した。	A	地域団体への支援は、社会教育に対する図書館の活動として極めて重要であり、評価する。 更なる充実を期待する。
キ 「千葉県図書館地域おはなしボランティア養成講座」を実施し、ボランティアを育成・補充するとともに、資質向上のための研修等を実施します。(全館)	A	●「千葉県図書館地域おはなしボランティア養成講座第6期」を実施し、新たに21人のボランティアを育成した。 ●既に登録して活動しているおはなしボランティアの資質・力量向上のための、スキルアップ研修を実施した。(12回、延べ90人参加)	A	ボランティアの新たな育成について評価する。 今後も継続し、実施願いたい。
ク 図書館で育成した地域おはなしボランティアを、地域団体等の依頼を受けて派遣します。(全館)	B	●図書館で育成した地域おはなしボランティアを、地域団体等の依頼を受けて派遣した。	A	地域の様々な団体の要望に応え、より積極的な展開を期待する。
ケ 家庭での読書をすすめるため、「ファミリーブックタイム事例集」を発行します。(中央館)	A	●4か月児向けの事例集を各区保健福祉センターに配布(9,100部)し、小学校の新入学児童向けの事例集を市内全小学校に配布(10,170部)した。	A	事例集の内容が改善されたことについては評価する。 図書館の利用案内に関する項目など、保護者に対する利用啓発を行うなど、内容を検証し、継続的な実施を期待する。
コ 4か月児健康診査における読み聞かせの実演や研修に、職員及び地域おはなしボランティアを派遣することや、配布図書選書の検討に職員が加わることなどにより、ブックスタート事業に協力します。(全館)	A	●引き続き「ブックスタート」事業に地域おはなしボランティアを派遣した。また、各区健康課の要請に応じて、絵本ボランティア養成講座の講師を務めるなど、ブックスタート事業に協力した。	A	継続的な取り組みについて評価する。
サ 保育所・子どもルームなど子育て支援施設と連携・協力し、子どもの読書環境を豊かにしていきます。(全館)	B	●保育所・子どもルームなどの子育て支援施設に地域おはなしボランティアを派遣したり、団体貸出を行った。 ●地域おはなしボランティアの活動の場として、広く周知を図っていく必要がある。	B	継続的な取り組みについて評価する。 子育て支援施設の開拓など、更なる活動機会の拡大が望まれる。

	評価指標	達成目標	平成24年度実績	達成状況	平成23年度実績	平成22年度実績	備考
4-1	児童書の貸出冊数	対前年度比増	123万冊	未達成 (前年比3万冊減)	126万冊	130万冊	1年間に個人貸し出した児童書(絵本～中学生向き図書、雑誌、紙芝居)の冊数
4-2	おはなし会等の開催回数及び参加者数	対前年度比増	1,024回 22,055人	達成 (前年比126回、 4,154人増)	898回 17,901人	970回 20,683人	図書館で行うおはなし会、絵本とわらべうたの会等の開催回数及び延べ参加者数
4-3	地域おはなしボランティア活動実施回数及び派遣人数	対前年度比増	218回 583人	未達成 (前年比2回、90 人減)	220回 673人	181回 717人	地域おはなしボランティア活動の実施回数及び延べ派遣人数
4-4	学校等関連施設と連携事業を行った回数	対前年度比増	406回	未達成 (前年比13回減)	419回	374回	図書館見学、おはなし会、調べ学習、職場体験、学校での利用案内等の連携事業を行った回数
4-5	団体貸出による児童図書の提供数	対前年度比増	23,389冊	達成 (前年比295冊 増)	23,094冊	20,723冊	団体貸出により千葉市の子どもたちが利用した図書の冊数

内部評価

【評価】

- 子ども読書活動の推進については、「子ども読書まつり」をはじめ「千葉市子ども読書活動推進計画(第2次)」に基づく各種事業を展開するなど、概ね計画通り実施することができた。
- ブックスタート事業に事例集の作成・配布や、「地域おはなしボランティア」を派遣するなど、学校・家庭・関係機関等との連携、協力を努めた。
- 学校の図書館見学や職場体験を積極的に受入れ、一定の成果を上げることができた。
- 団体貸出は昨年度を上回る貸出数となった。

【課題】

- 児童書の貸出冊数が減少していることから、団体貸出における貸出・返却ポイントの拡大(分館までなど)や、図書館未利用学校への更なるPRが必要である。
- 学校以外の子どもルームや保育所等、子育て支援施設との連携に努める必要がある。
- 学校や関係機関へ派遣できる職員を増やす必要がある。
- 地域おはなしボランティアの活動の場を、更に広げていく必要がある。

【方針】

- 引き続き、団体貸出用資料やYA資料の充実を図る。
- 図書館以外の関係機関や団体との連携を強化し、更なる利用促進策を図っていく。

外部評価

【評価】

- ・児童サービスへの積極的な対応は全体として評価したい。
- ・YAコーナーの設置など、中・高校生向けサービスの実施についても評価する。
- ・「子ども読書まつり」は、市民の関心も高く、内容も充実しており評価できる。
- ・児童サービスに精通した職員の存在は、図書館サービスにとって不可欠であり、人材育成の取り組みについては評価する。
- ・小中学校や地域団体への支援は、学校教育や社会教育に対する図書館の活動として極めて重要であり評価する。
- ・教職員に図書館の実態を知ってもらうことは、図書館に対する理解や、生徒への指導による利用促進にもつながる。積極的な対応を評価したい。
- ・地域団体への支援は、社会教育に対する図書館の活動として極めて重要であり、評価する。
- ・「ファミリーブックタイム事例集」の内容が改善されたことについては評価する。

【課題】

- ・児童書の貸出冊数は減少していることから、サービスに対する実績や効果について検証し、対応する必要がある。
- ・ブックリスト「よんでみよう」は、新しい本も取り入れ、内容を更新する必要がある。
- ・YAサービスでは、今後の利用促進に向け、アンケートによる選書などを引き続き実施し、中・高校生が魅力を感じるような資料の充実、情報の発信を期待する。まだ館によってサービスのばらつきがあるため、各館が積極的な取り組みを行うことを望みたい。
- ・講師を務めることのできる人材が新たに育っていないことから、育成は急務であると考える。
- ・子どもの読書推進は保育園・幼稚園・学校・地域の文庫や子どもと本に関わる団体などと連携して進めないと効果は上がらない。図書館がそれらをつなぐ役割を担って欲しい。
- ・図書館員が小学校等へ積極的に足を運ぶことは、たいへん重要であり、その中で行われる講座や利用指導の効果は高い。より積極的な実施を望む。
- ・年齢に応じた見学内容の工夫や、分館での対応も含めた、図書館から離れた学校への支援など、多くの児童・生徒がサービスを受けられるよう更なる充実を期待する。
- ・一部の近隣の学校だけではなく、すべての子ども達が利用講座を受けられるよう、より広域での実施が望まれる。

【方針5】 他の図書館や関係機関と連携・協力します

(1)図書館間協力の一層の推進		内部評価	取組結果	外部評価	外部評価者のコメント
取組項目	ア 図書館間の相互貸借等により、千葉市図書館に所蔵していない資料を市民に提供するとともに、他の図書館等を通じて千葉市図書館の資料を有効活用します。(全館)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●千葉市が所蔵していない資料についても、積極的に相互貸借で対応することにより、利用者に提供した。 ●未所蔵図書を求める利用者に対し、図書館間協力制度の紹介を行った。 ●大学図書館との物流体制の整備を図る必要がある。 	B	継続的な実施について評価する。 公共図書館間の相互協力制度は確立しており、当然の事業となっている。今後も継続されたい。なお大学図書館は、市民に開放されているところも多く、その点を踏まえた相互協力体制の整備が必要である。
	イ 平成24年3月から、国立国会図書館の協同データベースに千葉市のレファレンス事例掲載を開始しましたが、今後も引き続き千葉市の事例を掲載し、登録事例を増やしていきます。(中央館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」に、レファレンス事例を追加した。《【方針2】(1)イ再掲》 ●図書館ホームページの「しらべかたのあんない(パスワード)」に、事例を追加した。《【方針2】(1)イ再掲》 	B	レファレンス協同データベースの特徴を把握し、登録事例を増やすとともに、利用者のニーズに沿った対応を望む。
	ウ レファレンスサービスに関する相互協力を行います。(中央館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●千葉市所蔵の資料だけでは回答が難しいレファレンスについて、千葉県内外の図書館や類縁機関に協力を求めた。 	A	各種の機関の特徴や所蔵情報を把握し、相互に活用しあうことが必要であり、今後も広範な関連機関との連携を図るよう望む。
	エ 千葉市図書館情報ネットワーク協議会(*18)加盟館の連携による資料の相互利用や、企画展示などの事業を実施します。(中央館)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●加盟館紹介展を実施した。併せて期間中に講演会を開催した。 *加盟館紹介展：10-11月(場所：千葉市生涯学習センター) *講演会：11月(会場：千葉市生涯学習センター) テーマ「電子書籍の可能性～利用と課題～」 ●資料の相互利用を高めるため、引き続き検討を行う。 	B	継続的な実施について評価する。 ネットワーク協議会の主旨を踏まえ、個々の図書館の資質向上に向けた取り組みを積極的に展開していく必要がある。
	オ 他の図書館との協力による共同研修や共同事業を実施します。(中央館)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●文化庁及び千葉県との共催により「著作権セミナー」及び分科会を開催した。《【方針3】(2)ウ再掲》 ●更なる事業の拡充を図る必要がある。 	B	事業の実施について評価するが、更なる充実が望まれる。
	カ 平成24年1月に設置された「九都県市首脳会議 知識・情報資源としての図書館利活用研究会」に参画し、構成都県市の図書館との広域的連携などについて検討します。(中央館)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●「自慢したい風景」と題し、九都県市の図書館で企画展示を同時に開催した。 *千葉市中央図書館展示：10-12月(場所：1階エントランス展示コーナー) ●今後の連携体制について、検討を進める必要がある。 	B	新たな取組みについて評価する。 更なる連携や、独自の取り組みに関するアピールなど、引き続き検討していただきたい。

(2) 地域の関係機関、各種団体等との連携

取組項目	ア 市内の生涯学習施設、教育機関、公的機関、類縁機関等と連携し、資料の収集や提供を行うとともに、各種事業の実施に際して相互に事業協力を行います。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●「子ども読書まつり」の中で、「千葉市の姉妹都市・友好都市」の展示をおこなった際、国際交流課より資料の提供を受けた。 ●「図書館市民講座」、「ビジネス支援講座」を、生涯学習センターの「学びフェスタ」と連携して実施した。 ●「千葉市科学館」の協力を得て、子ども読書まつりにて「科学遊び」、「エイムズの部屋」を実施した。 ●公民館と共催で、おはなし会やわらべうたの事業を実施した。 ●コミュニティセンターと協賛にて、親子映画会、科学教室、親子おはなし会、市民講座を開催し、関係資料の展示・貸出を行った。 ●動物公園、科学館、埋蔵文化財センター、県警、町内自治会、NPO、高齢者社会福祉施設、私立高校、おはなしボランティアグループと連携・協力した事業を実施した。 	A	多彩な事業により、図書館利用の活性化が図られている点を評価する。また、さまざまな機関と連携して幅の広い企画が出来るように工夫されたことはよかった。
	イ 高等学校や大学、教育センター等教育機関との連携を図り、高校生、大学生、教員の図書館利用促進と、相互の資料活用について検討します。(中央館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●教育センターにおける教職員向け講座の講師を務め、図書館利用や読書指導、おはなし会、ブックトークについての講義を行った。 ●学校図書館協議会における教職員向けの説明会や夏休み中の団体貸出資料見学会で、団体貸出や図書館利用の促進を図った。 ●高校生の図書館見学及び利用指導も要望に応じて実施した。 	A	教職員向けの講座や説明会の開催など、積極的な対応を評価する。
	ウ 庁内の職員に対して、業務遂行に必要な資料・情報を提供することなどにより、行政サービスの向上を支援します。(中央館)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●庁内の職員に対して、行政サービス支援のPRをした。 ●求めに応じて調査や資料提供を行った。 ●利用件数が少ないため、更なるPRを行う必要がある。 	B	継続的な実施を評価する。 地道な事業展開によって、庁内における図書館の理解者の増加につながることも、より積極的な展開を望みたい。
	エ 千葉市内で、市民に資料貸出や閲覧を行っている施設との連携や協力について検討します。(中央館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●読書環境整備計画(仮称)骨子に「図書館以外の読書施設との連携」の位置付けを行った。 	B	具体的な連携や協力について、引き続き実施に向けた検討を望む。
	オ 高齢者福祉施設と連携し、泉分館で大人向けおはなし会を実施します。(若葉)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●泉分館において、継続的に実施した。 ●更なる連携施設の拡充を図る必要がある。 	B	泉分館の取り組みを評価する。 更なる拡大を望みたい。

	評価指標	達成目標	平成24年度実績	達成状況	平成23年度実績	平成22年度実績	備考
5-1	図書館間相互貸借資料数	対前年度比増	借受6,449冊 貸出6,765冊	一部達成(前年比 借受:929冊減、貸出:1,068冊増)	借受7,378冊 貸出5,697冊	借受7,621冊 貸出6,230冊	他の図書館等との間で、千葉市図書館にない資料を借受した冊数と、千葉市図書館の資料を貸出した冊数
5-2	連携事業等実施数	対前年度比増	343件	達成 (前年比 26件増)	317件	277件	学校以外の機関(保育所・公民館等)との連携により実施した、市民を対象とした事業の数

内部評価

【評価】

- 国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」へのレファレンス事例提供を増やすなど、図書館間協力の一層の推進を図った。
- 県内外図書館との相互協力による資料の提供の制度が図書館利用者に浸透しつつあることなど、成果が上がっている。(利用者アンケートによるサービス認知度 H23:76.9% H24:82.2%)
- 地域の関係機関、各種団体等との連携については、千葉市図書館情報ネットワーク協議会加盟館、学校、関係機関との連携事業も概ね計画通り実施することができた。

【課題】

- 庁内職員に対する支援は、利用件数が少なく、有効な施策にまで至っていない。
- 大学図書館との物流体制の整備を図る必要がある。
- 他の図書館間協力については、更なる事業の拡充を図る必要がある。
- 千葉市図書館情報ネットワーク協議会との研修や、企画展示等での協力を行ったが、資料の相互協力の物流の確保など課題がある。
- 他機関との連携については、高齢者福祉施設など更なる連携施設の拡充を図る必要がある。

【方針】

- 庁内職員への図書館サービスについては、職員ニーズの把握に努め、更なるPRや支援サービスの充実策について検討する。
- 高齢者福祉施設等、更なる地域の関係機関、各種団体等との連携を進展させる。

外部評価

【評価】

- ・国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」への事例登録は評価する。今後、レファレンス協同データベースの特徴を把握し、登録事例を増やすとともに、利用者のニーズに沿った対応を望む。
- ・市内の各種機関・団体との連携によって多彩な事業が展開され、図書館利用の活性化が図られている点を評価する。さまざまな機関と連携して幅の広い企画が出来るように工夫されたことはよかった。
- ・千葉市図書館情報ネットワーク協議会での加盟館との連携協力、また研修会への参加を評価する。
- ・教職員向けの講座や説明会の開催など、積極的な対応を評価したい。
- ・庁内職員への情報提供が始まっており、さらなる充実に努め、庁内における図書館理解者の増加を図りたい。

【課題】

- ・図書館が第一に考える連携先は公民館図書室であり、公民館図書室との連携を強化し、公民館図書室のサービス向上に積極的に関わる必要がある。
- ・国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」への事例登録を増やし、利用者が使えるデータベース構築に寄与してもらいたい。
- ・今後も広範な関連機関との連携・協力を図る必要がある。
- ・庁内職員に対する情報提供は地道な対応が必要であり、継続的に実施していく必要がある。

【方針6】 市民参加と協働による図書館づくりをめざします

(1) 図書館活動への参加機会の提供		内部評価	取組結果	外部評価	外部評価者のコメント
取組項目	ア 「図書館サポーター(仮称)」制度など、図書館サービスにおける市民ボランティアの活動領域の拡大について、引き続き検討します。(中央館)	C	●「図書館サポーター(仮称)」制度については検討が進まなかったが、「図書館見学ツアー」についてはボランティアに参加してもらい実施した。今後、ボランティアによる運営を進めていく。	C	市民との協働とは何かを十分に検討し、図書館とボランティアのよりよい関係を模索していただきたい。 「図書館サポーター(仮称)」制度についても、改めて意義・内容の検討が必要である。
	イ 地域おはなしボランティアを育成し、地域での活動を支援します。(全館)	A	●「千葉県図書館地域おはなしボランティア養成講座第6期」を実施し、新たに21人のボランティアを育成した。≪【方針4】(2)キ再掲≫ ●既に登録して活動しているおはなしボランティアの資質・力量向上のための、スキルアップ研修を実施した。≪【方針4】(2)キ再掲≫	A	ボランティア育成への積極的な取り組みについて評価する。更なる充実を期待したい。
	ウ 大学生の司書課程実習やインターンシップ実習を受け入れます。(全館)	A	●平成24年度より新たに、要望のあった大学から司書課程実習、インターンシップ実習の受入を行った。(各3名)	A	司書の養成のために実習やインターンシップの果たす役割は大きく、積極的な受け入れを評価する。 継続的な対応を望む。
	エ 中・高校生や大学生の学生ボランティアの受け入れについて検討します。(全館)	B	●市内の高校からの協力を受け、「高校生が語るおはなし会」を実施した。 ●大学生の受入について検討する必要がある。	B	高校生の受入は、大切な事業であり、評価する。 更なる対象範囲や、実施件数の拡大が望まれる。
	オ 図書館が地域の交流の場となるように、市民の企画・参加による事業の実施について引き続き検討します。(中央館)	B	●「政令指定都市移行20周年記念事業」として、関係機関や学校、市民団体などと連携して子ども読書まつりを実施した。≪【方針4】(1)カ再掲≫ ●更なる事業の拡充を図る必要がある。	C	企画段階において市民が参画する機会が見当たらないため、より積極的な取り組みが望まれる。 市民との協働について、指針を定める必要がある。また、市民の多彩な能力を発掘し、それを活かす場になっていない。中央図書館が担当館になっているが、地区館が担当してもよいのではないか。

(2) 市民との協働による図書館づくり

取組項目	ア 図書館運営に対する多様な市民の意見を反映するため、委員の改選にあたり、公募委員を増員させます。(中央館)	A	●従来の「家庭教育の向上に資する活動を行う者」へ、新たに「社会教育関係者」を公募委員として加え、2人に増員した。	A	市民の声を図書館行政に反映させるため、公募委員の増員については評価できる。 図書館利用者から、公募への応募が多くなることを期待したい。
	イ 市政モニターや図書館ホームページからのアンケート調査等を行うことにより、図書館未利用者の意見等を把握し、図書館運営の改善に向けた基礎資料とします。(中央館)	B	●市政モニターによるアンケートは実施したが、図書館ホームページからのアンケート調査については、システムの改修などの課題があり、今後も継続して実施に向けた検討をしていく。	B	アンケートの実施を目的化せず、多様な手法により市民ニーズを把握・分析するための基礎データとしての活用を望む。
	ウ 市民懇談会を実施します。(中央館)	B	●「中央図書館見学ツアー」後にツアー参加者との市民懇談会を実施し、活発な意見交換を行った。 ●開催数・参加者数の増に向け検討する必要がある。	B	市民の意見を聞く貴重な機会でもあり、懇談会の実施は評価する。 開催数や参加者数の増加に向けた取り組みをお願いしたい。

<p>エ 平成24年3月に試行実施した「中央図書館見学ツアー」を、平成24年度は計画的に実施し、市民が図書館業務の現状や課題などに関する理解を深めるための機会を提供します。(中央館)</p>	<p>A ●参加者10名による「中央図書館見学ツアー」を実施した。</p>	<p>A ツアーの実施について評価する。開催数の増加を期待したい。</p>
<p>オ 図書館利用者に対し、図書館利用アンケート調査を実施し、その結果を図書館サービスの向上に役立てるとともに、図書館サービスの評価に活用します。(全館)</p>	<p>C ●図書館サービス満足度は89%と昨年を若干下回った。意見としては、資料の充実、地区館・分館の開館日・開館時間の拡大を望むものが多く見られるため、これらの課題解決に向けて検討を行う。 ●特に催し物(おはなし会・講座など)については、認知度は高いが参加者が少ないため、募集方法や広報の工夫を工夫する必要がある。</p>	<p>B アンケート調査を継続的に実施し、結果を検証しながら改善に向けた努力を行っていることは評価できる。 満足度が下がったことについては、アンケート内容の分析とその対応を検証し、図書館サービスの向上に活用していただきたい。</p>

	評価指標	達成目標	平成24年度実績	達成状況	平成23年度実績	平成22年度実績	備考
6-1	千葉県図書館利用アンケート調査(利用者満足度調査)における満足度	現状維持	満足度 89.6%	未達成 (前年比1.4%減)	満足度 91.0%	満足度 86.1%	<p>千葉県図書館利用アンケートにおいて、市全体の図書館サービス満足度を、「満足」または「やや満足」と回答した利用者の割合(小数点2位以下は四捨五入)</p> <p>24年度 満足 35.9% やや満足 53.6%</p> <p>23年度 満足 37.9% やや満足 53.1%</p> <p>22年度 満足 38.3% やや満足 47.8%</p>

内部評価

【評価】

- 地域おはなしボランティア養成講座を実施し、新たに21人のボランティアを育成するとともに、スキルアップ研修の実施など、ボランティアの育成に努めた。
- 近隣の小学校や特別支援学校で、おはなし会やブックトークを実施するなど、ボランティアの図書館活動への参加機会の提供を行った。
- 図書館協議会委員における公募委員を2人に増員し、多様な市民の意見を図書館運営に反映するよう努めた。

【課題】

- 利用アンケート調査において、図書館サービス満足度は89%と昨年を若干下回った。また、資料の充実、地区館・分館の開館日・開館時間の拡大を望む意見が多く見られるため、これらの課題解決に向け検討する必要がある。
- 学生ボランティアの受け入れについては、大学生の受入について検討する必要がある。
- 子ども読書まつりの他に、更なる市民の企画・参加による事業の拡充を図る必要がある。
- 市民懇談会の開催数・参加者数の増に向け検討する必要がある。

【方針】

- 利用アンケートの分析により、市民ニーズを的確に把握し、図書館サービスの改善を目指す。
- 地域おはなしボランティアの養成講座を引き続き実施し、継続的に地域おはなしボランティアの登録者を確保していく。
- 図書館見学ツアー及び市民懇談会の開催数・参加者数の増など、市民参加及び協働事業の拡充に向け検討する。

外部評価

【評価】

- ・地域おはなしボランティア育成への積極的な取り組みについて評価する。
- ・司書の養成のために実習やインターンシップの果たす役割は大きく、積極的な受け入れを評価する。また「高校生が語るおはなし会」の実施も評価できる。
- ・市民の声を図書館行政に反映させるため、公募委員の増員については評価できる。図書館利用者から、公募への応募が多くなることを期待したい。
- ・市民懇談会は、市民の意見を聞く貴重な機会でもあり、懇談会の実施は評価する。開催数や参加者数の増加に向けた取り組みをお願いしたい。
- ・アンケート調査を継続的に実施し、結果を検証しながら改善に向けた努力を行っていることは評価できる。満足度が下がったことについては、アンケート内容の分析とその対応を検証し、図書館サービスの向上に活用していただきたい。

【課題】

- ・市民との協働とは何かを十分に検討し、図書館とボランティアのよりよい関係を模索していただきたい。「図書館サポーター(仮称)」制度についても、改めて意義・内容の検討が必要である。
- ・「子ども読書まつり」は、市民の関心も高く、内容も充実しており評価するが、市民参加という点では、企画段階で市民が参画する機会が見当たらず、消極的であると感じる。市民との協働について、指針を定める必要がある。また、市民の多彩な能力を発掘し、それを活かす場になっていない。中央図書館が担当館になっているが、地区館が担当してもよいのではないか。

【サービス推進のための経営資源について】

図書館サービスに欠くことのできない「施設」「資料」「人」の3つの経営資源の充実に努めます		内部評価	取組結果	外部評価	外部評価者のコメント
取組項目	ア 図書館の安全性・快適性を確保するため、施設の点検や老朽化部分の改修を行います。(全館) * 空調設備の改修に伴う実施設計(みやこ)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●施設の点検及び修繕を実施した(小破修繕)。 *みやこ図書館:空調設備改修に伴う実施設計を行った。白旗分館の返却ポストの整備を行った。 *美浜図書館:返却ポスト設置に向けた予算措置を行った。 ●厳しい財政状況であるが、安全面や緊急性等から優先度を勘案し、今後も必要に応じ修繕対応を行う。なお、一定規模以上の修繕は、必要に応じ中長期保全計画に位置付け計画的に実施する。 	B	<p>継続的な対応について評価する。</p> <p>施設の老朽化は、市民の安全やサービスの質にも影響する。財政状況の厳しさは理解しながらも、市民の安全・安心のためにも、予算の確保と先を見越した対応をお願いしたい。</p>
	イ 読書環境整備計画調査の実施 良好な読書環境を整備するため、ICTの活用や施設の機能更新など、読書環境の整備にかかる計画を策定します。平成24年度は、市民意識調査や有識者からの意見聴取などを実施します。(中央館)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●市のインターネットモニターアンケート調査を活用したアンケート調査を実施したほか、骨子(案)について、図書館協議会へ報告を行った。 ●有識者への意見聴取については、ICTの専門家を招いた講習会の実施等を行ったほか、図書館向けの展示会等に参加し今後の方向性を調査した。 	B	<p>計画的な実施について評価できる。</p> <p>平成25年度の策定に向け、市民の意見や要望、図書館の空白地帯の検証を行い、ハード面の長期的な整備計画も入れていただきたい。</p>
	ウ 図書資料費の有効活用により、図書資料を整備するとともに、引き続き図書資料費の確保に努めます。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●図書資料の整備に充てるため、寄付金の受入や募金箱の設置を開始した。 ●合同選定会議・館内選定会を実施し、多岐にわたる利用者の要望に対応した。《【方針1】(1)イ再掲》 ●「千葉市図書館資料収集方針」に基づき、効率的・計画的に各分野の新刊書などを購入し、利用者に提供した。《【方針1】(1)イ再掲》 	B	<p>新たな取り組みについて評価する。</p> <p>子どもたちの育成や地域の課題解決に役立つ図書館の価値を理解してもらい、募金や寄附に頼ることなく、資料費の確保に向けた努力をお願いしたい。</p>
	エ 接遇研修の実施や接客マナーの徹底等により、「身近で頼れるみんなの図書館」としてのサービス向上に、引き続き取り組みます。(全館)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●外部講師による接遇の全体研修、全庁的な取り組みである「接遇向上宣言」による取り組み、所属単位での研修・啓発等を実施することにより、サービス向上に努めた。 ●窓口の対応に係る苦情などが引き続き見られることから、更なる業務水準の向上を図る必要がある。《【方針1】(1)ケ再掲》 	B	<p>継続的な対応について評価する。</p> <p>対人サービスの基本である接遇の質を向上させ、利用者満足度を高めていただきたい。</p>
	オ 図書館サービスをはじめ、行政分野や地域の課題にも精通し、高度で的確なサービスを提供できる専門職員の確保と育成に努めます。(中央館)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●司書資格を有する職員の配置を要望するとともに、有資格の嘱託職員について内部研修や派遣研修により育成を図った。 ●より多くの職員を専門的な研修に派遣できるよう、予算の確保に努める必要がある。 	B	<p>嘱託を含めた、職員研修の実施については評価できる。</p> <p>正規職員の司書比率は、微増だが増加しており評価したい。司書の確保は、図書館サービスの質に直結するため、今後も専門的能力を持った有資格者の確保に努めていただきたい。</p> <p>また、職員が司書資格取得をとりやすい体制を作るなどして、司書資格を有する職員の割合を増やす努力が必要である。世代交代の時期を向かえ、新しい人材の育成も急務となっている。</p>

	評価指標	達成目標	平成24年度実績	達成状況	平成23年度実績	平成22年度実績	備考
7-1	司書資格を有する職員の割合	対前年度比増	54.0%	達成 (前年比1.1%増)	52.9%	54.6%	千葉市図書館の職員(正規職員及び嘱託職員)のうち、司書資格を有する職員の割合(翌年度4月1日現在) 24年度 正規職員 29.7% 嘱託職員 95.7% 23年度 正規職員 27.7% 嘱託職員 97.1% 22年度 正規職員 30.2% 嘱託職員 95.7%

内部評価

【評価】

- 施設の修繕は、予定通り実施できた。
- 市の実施計画の位置付けとなる「読書環境整備計画(仮称)」の骨子(案)を策定し、図書館協議会へ報告を行った。
- 図書資料の整備に充てるため、寄付金の受入や募金箱の設置を開始した。

【課題】

- 施設については、今後も修繕を要する地区館等もあり、計画的に整備を進める必要がある。
- 高度なレファレンスなど利用者の多様なニーズに対応するため、職員の専門知識の向上を図る必要がある。
- 窓口の対応に係る苦情などが引き続き見られることから、更なる業務水準の向上を図る必要がある。
- より多くの職員を専門的な研修に派遣できるよう、予算の確保に努める必要がある。

【方針】

- 「読書環境整備計画(仮称)」を、平成25年度に策定し、ICTの活用や施設の機能更新など、読書環境の整備を計画的に実施する。
- 安全面や緊急性等から優先度を勘案し、今後も必要に応じ修繕対応を行う。なお、一定規模以上の修繕は、必要に応じ中長期保全計画に位置付け、計画的に実施する。
- 職員研修の充実を図るとともに、職員の研修への参加機会の拡大を図る。

外部評価

【評価】

- ・計画されていた施設の点検及び修繕は実施されており、計画的な実施について評価したい。
- ・嘱託を含めた、職員研修の実施については評価できる。
- ・正規職員の司書比率は、微増だが増加しており評価したい。

【課題】

- ・施設の老朽化は、市民の安全やサービスの質にも影響する。財政状況の厳しさは理解しながらも、市民の安全・安心のためにも、予算の確保と先を見越した対応をお願いしたい。
- ・「読書環境整備計画調査」では、平成25年度の策定に向け、市民の意見や要望、図書館の空白地帯の検証を行い、ハード面の長期的な整備計画も入れていただきたい。
- ・図書資料費の確保については、子どもたちの育成や地域の課題解決に役立つ図書館の価値を理解してもらい、募金や寄附にたよることなく、資料費の確保に向けた努力をお願いしたい。
- ・対人サービスの基本である接遇の質を向上させ、利用者満足度を高めていただきたい。
- ・司書の確保は、図書館サービスの質に直結するため、今後も専門的能力を持った有資格者の確保に努めていただきたい。また、職員が司書資格取得をとりやすい体制を作るなどして、司書資格を有する職員の割合を増やす努力が必要である。世代交代の時期を向かえ、新しい人材の育成も急務となっている。

【総合評価】

内部評価

【評価】

- 総合的には、一定の業務水準を確保することができたものとする。
- 年間受入図書資料数については、交付金等の削減により、前年度実績に届かなかったものの、団体貸出用資料の充実を重点的に図るなど、資料費を有効に活用するとともに、寄贈を呼びかけ、寄贈資料数を増やした。また、マナー啓発等を積極的に実施し、延滞件数の減少につなげるなど、資料の適正な管理を行うことができた。
 - 寄付金の受入や募金箱の設置を新たに開始することにより、資料の整備費用の確保に努めた。
 - 課題を解決するためのサービスについては、図書館ホームページにおいて、掲載項目の拡充を図るなど、レファレンスの活用について広報に努め、受付数の増につなげることができた。
 - 中央図書館に新たに「ビジネス支援コーナー」を設置し、ビジネス支援サービスを開始するなど、だれもが利用しやすい図書館サービスを展開することができた。
 - 利用者への情報発信については、図書館ホームページへ新たに「ビジネス情報」を掲載するなど、コンテンツの一層の充実を図り、積極的な情報発信に努めた。さらに、Facebookページを開設して迅速かつ頻りに記事を投稿するなど、新たな層への情報発信を進めた。
 - 郷土資料のデジタル化に着手するなど、ICT化を推進することができた。
 - 子どもの読書活動の推進については、「子ども読書まつり」をはじめとした各種事業を実施するとともに、ブックスタート事業への協力や、学校の図書館見学や職場体験の受入れ等を行った。団体貸出は昨年度を上回る貸出数となった。
 - 地域おはなしボランティア養成講座などでボランティアを育成するなど、市民参加を進めたほか、図書館協議会委員における公募委員を2人に増員し、多様な市民の意見を図書館運営に反映するよう努めた。

【課題】

- 来館者数は減少傾向にあり、市民一人当たり貸出数及び総貸出数、WEB予約件数については、目標を達成できなかった。
- 図書館サービス満足度は89%と昨年度を若干下回っており、資料の充実、地区館・分館の開館日・開館時間の拡大を望む意見が多く寄せられた。
- 図書資料の充実、図書館未利用者へのPR、有料データベース等の活用、館内公衆無線LAN環境の整備のほか、高度なレファレンスなど利用者の多様なニーズに対応するため、職員の専門知識の向上を図る必要がある。
- 高齢者福祉施設など他機関との連携の強化や、市民との協働などに取り組んでいく必要がある。
- 施設については、今後も修繕を要する地区館等もあり、計画的に整備を進める必要がある。

【方針】

- 以上のことから、引き続き、限られた予算の中で、最大限の図書館サービスの提供を目指し、一つ一つの課題を解決していくため、次のように施策展開を図る。
- 資料の充実を図るため、資料費予算の確保のほか、予約多数本の寄贈を引き続き呼びかけるなど、寄贈図書の有効活用を努める。
 - 図書館未利用者へのPRの強化については、引き続きホームページやFacebookページ、図書館だより等により積極的にPRを行う。
 - 各種講座を開催し、普段、図書館を利用していない人々への来館を促すと同時に、講座の魅力をより一層高めることにより、参加者増を図る。
 - 図書館以外の地域の関係機関、各種団体、ボランティア等との連携を進展させる。
 - 利用アンケートの分析により、市民ニーズを的確に把握し、図書館サービスの改善を目指す。
 - 「読書環境整備計画(仮称)」を平成25年度に策定し、ICTの活用や施設の機能更新など、読書環境の整備を計画的に実施する。
 - 職員研修の充実を図るとともに、職員の研修への参加機会の拡大を図る。
 - 施設整備について、安全面や緊急性等から優先度を勘案し、今後も必要に応じ修繕対応を行う。

外部評価

【総合評価】

- ・中央図書館だけでなく図書館全体で前向きな姿勢を感じる事が出来、サービスの向上に努めていることは評価できる。
- ・図書館協議会の公募委員を1人から2人へ増員したことについては評価できる。
- ・Facebookの活用、ビジネス支援サービスの開始、地域資料のデジタル化など新たな取り組みは評価できる。
- ・「読書環境整備計画」に着手しソフトとハード両面で今後の千葉市の図書館のあり方を方向付けることは大変重要である。現状を十分に分析して、市民の要望にこたえる計画が作成されるよう期待したい。
- ・課題もあるが、図書館職員の日々の努力に深く感謝したい。

「課題」

- ・様々な取り組みがされ、努力もされているのに一般も児童も貸出が減る傾向があることをどのように考えるのか、その原因について分析し、検討することが必要である。
- ・寄贈や寄附に頼らない図書資料や資料費の充実を望む。
- ・ICTの活用は不可欠であり、早急な実施を望む。
- ・市民の課題解決に対応したレファレンスサービスの展開を望む。
- ・図書館未利用者への積極的なPRの実施を望む。
- ・市民との協働事業について、より積極的な取り組みを望む。
- ・司書資格を持って活躍された方が次々と定年退職されている。それを受け継ぎ発展させる人的要件が弱いように見受けられる。人の問題が千葉市の図書館にとって最大の問題だと考える。早急な対策をしないと先に評価した項目の質が達成できない。
- ・公民館の運営が指定管理者になることが検討されている。公民館図書室は統計にも組み込まれている大切な読書施設で、利用者の20%が利用している。管轄が違うが千葉市の読書環境を全体的に見る責任は図書館にある。公民館図書室がどうあることが市民にとって良いのか図書館の立場で考える時である。

【用語解説】

- *1 **除籍**: 図書館に受入登録されている資料の記録を抹消すること。
- *2 **レファレンスサービス**: 利用者からの質問に対し、図書館で得られる情報を基に答えるサービス。回答そのものを与えるものと、回答を得るために必要な資料や情報源を提供する場合がある。
- *3 **おはなし会**: 読み聞かせ、素話、わらべうた等の会の総称。
- *4 **非常勤職員**: 一般職の常時勤務を要しない職員。図書館では、週3日勤務。雇用期間は原則1年だが、図書整理業務は経験が必要であり、継続雇用手続きをとっている。
- *5 **公衆無線LAN環境**: 無線LANによってノートパソコンなどから、インターネットへの接続サービスを利用出来る場所を設定する。利用に際しては、利用者自身の接続業者との契約が必要となる。
- *6 **調べ方案内(パスファインダー)**: 特定のテーマに関する資料や情報の調べ方を一覧できるようにまとめたもの。網羅的な文献リストや全般的な検索方法の紹介とは異なる。
- *7 **非常勤嘱託職員**: 特別職の地方公務員。教育委員会が委嘱し、委嘱期間は1年(再委嘱可)。図書整理業務については、司書有資格者を、中央図書館は週4日勤務、地区図書館・分館は週3日勤務で委嘱している。
- *8 **YA(ヤングアダルト)**: 図書館界や出版界で、主に10代の読者や利用者を、児童と成人の中間に位置し独特の配慮を要する利用者層として意識して呼称するときに使う用語。千葉市図書館のサービス対象としては、中・高校生を想定している。
- *9 **対面音訳**: 視覚などに障害を持ち、活字資料を読むことが困難な利用者に対し、1対1で、資料を読むサービス。「対面朗読」とも言うが、文章だけでなく、図・表・写真も音声化することが求められるため、「音訳」という言葉を使っている。
- *10 **サピエ**: 視覚障害者を始め、目で文字を読むことが困難な方々に対して、さまざまな情報を点字、音声データで提供するネットワーク。日本点字図書館がシステムを管理し、全国視覚障害者情報提供施設協会により運営されている。
- *11 **多文化サービス**: 地域に暮らすマイノリティ(民族的・言語的・文化的少数者)に対し、母語を中心とした資料・情報を提供することで、知る権利・学ぶ権利を保障する図書館サービス。多言語サービスとも言う。
- *12 **自宅配本**: 身体障害等で、図書館への来館が困難な市民に対して、地区図書館から職員が、月2回、図書館資料を届けるサービス。
- *13 **地域・行政資料**: 特定の地域で刊行、出版され、また、その地域に関して記述されている資料、図書、逐次刊行物、小冊子等の文献資料などその地域の事情を知り、研究の手がかりとなる資料。
- *14 **ソーシャル・ネットワーク・サービス(SNS)**: 人と人とのつながりを促進・サポートする、コミュニティ型の会員制インターネットサービスのこと。
- *15 **出前講座**: 市の施策や制度・事業について市の職員が説明に出向き、質疑応答や意見交換を通して、市政への理解を深め、参加と協働のまちづくりを推進するもの。(地域振興課所管事業)21年度は158テーマを掲げており、図書館は「図書館を上手に使いこなそう」と「知って得する図書館利用法」の2テーマで申し込みを受けている。
- *16 **ブックトーク**: グループを対象として数冊の本を紹介する仕事またはその集会。
- *17 **地域おはなしボランティア**: 千葉市における子どもたちの読書活動の推進を目的に実施する「おはなし会」等の趣旨に賛同し、自らの自由意思により、その知識及び技能を無償で提供する者。登録には千葉市生涯学習センター及び千葉市図書館主催のボランティア養成研修を修了することが条件となる。
- *18 **千葉市図書館情報ネットワーク協議会**: 千葉市内の館種を越えた図書館ネットワークを通じて、情報提供能力を強固にし、図書館サービスの向上を図ると共に、学術研究及び生涯学習の発展に寄与することを目的として、平成6年1月に設立。平成21年度の加盟館は24館。千葉市中央図書館が事務局となっている。



平成 25 年度 千葉市図書館のサービス取組項目 及び評価指標について

千葉市図書館のサービスの向上を図るため、「千葉市図書館サービスプラン 2010」における目標達成のための 6 つの方針に沿って、平成 25 年度の活動実績について評価を行うため、次のとおり取組項目及び評価指標を定めました。

【方針 1】 図書館サービスの基本である資料の収集、提供機能を拡充します

●平成 25 年度取組項目

(1) 資料の収集、整理、保存及び提供機能の充実

① 基本的な資料提供サービスの充実

- ・ 資料の収集・提供を迅速に行い、図書館の利用を促進します。(全館)

② 計画的な資料の収集と保存

- ・ 資料費を有効に活用し、図書資料の充実を図り、利用者に提供します。(全館)
- ・ 市民の財産である資料を適正に管理、保存します。(全館)

③ 利用しやすい環境の整備

- ・ 館内表示の改善や利用マナー向上の呼びかけなどにより、利用しやすい図書館環境づくりに努めます。(全館)
- ・ 施設を的確に安全管理するとともに、防災体制を整えます。(全館)
- ・ 移動図書館車による、図書館サービスを提供します。(中央館)

④ 業務水準の維持と向上

- ・ 図書館業務に関する専門研修を実施し、職員の業務水準を向上させます。
 - * 図書館職員初任者研修 (中央館)
 - * 図書館職員全体研修会 (中央館)
 - * レファレンス・スキルアップ研修 (中央館)
 - * 新任児童職員研修会 (全館)
 - * 障害者サービス職員研修会 (中央館)
- ・ 接遇研修の実施や接客マナーの徹底等により、「身近で頼れるみんなの図書館」としてのサービス向上につなげます。(全館)
- ・ 公民館図書室に対する選書、レファレンス、研修等の支援を行います。(全館)

(2) 多様な媒体による情報提供のための環境整備

① 印刷媒体と電子媒体を組み合わせた情報提供

- ・ 正確な情報提供のための有料データベース等の活用や、電子図書等の収集と提供のあり方について、引き続き検討します。(中央館)
- ② インターネット情報の利用環境整備
 - ・ 館内公衆無線 LAN 環境の整備等について、引き続き検討します。(中央館)
- ③ 視聴覚資料の収集と保存及び提供
 - ・ 視聴覚資料の収集、提供、保存のあり方や、新しい情報媒体への対応について、引き続き検討します。(中央館)

●平成 25 年度評価指標

No.	評価指標	H24 年度 実績	H25 年度 達成目標
1-1	市民一人当り貸出数及び 総貸出数	一人当たり 5.2 冊 (総貸出数 503 万冊)	対前年度比増
	図書館の利用増を図ることなどにより、対前年度比増を目指します。 ※1 年間に市民が借りて利用した資料数(公民館図書室での貸出を含む)を人口で割った冊数及び総貸出数 H21 : 5.7 冊(総貸出数 542 万冊) H 22 : 5.4 冊(総貸出数 525 万冊) H23 : 5.4 冊(総貸出数 523 万冊) H23 政令市平均 : 4.7 冊 県内平均 : 5.6 冊		
1-2	WEB 予約件数	92.0 万件	対前年度比増
	新規登録時や利用更新時のインターネット登録を促進することなどにより、対前年度比増を目指します。 ※図書館ホームページからの予約状況 H21 : 83.0 万件 H22 : 85.0 万件 H23 : 92.3 万件		
1-3	年間受入図書資料数	59,585 冊 (うち購入 36,624 冊 寄贈 22,793 冊)	現状維持
	限られた資料費を有効に活用するため、新しい図書資料を計画的に購入するとともに、寄贈による収集も併せて行い、現状維持を目指します。 ※千葉市図書館が、市民の利用に供するために受入した図書の冊数(購入、寄贈、製作) H21 : 49,436 冊(うち購入 29,420 冊、寄贈 19,842 冊) H22 : 46,741 冊(うち購入 26,204 冊、寄贈 20,366 冊) H23 : 68,745 冊(うち購入 48,527 冊、寄贈 20,116 冊)		
1-4	職員を対象とした図書館 業務に関する研修の実施・ 参加回数及び受講者数	127 回 延べ 528 人	現状維持
	研修内容の向上を図りつつ、実施回数及び受講者数は現状維持を目指します。 ※千葉市図書館において開催及び千葉市図書館職員(非常勤嘱託職員・非常勤職員含む)が参加した、図書館業務に関する研修回数及び受講者数 H21 : 116 回(延べ 537 人) H22 : 120 回(延べ 600 人) H23 : 135 回(延べ 557 人)		

【方針 2】 課題を解決するためのサービスに取り組みます

●平成 25 年度取組項目

(1) レファレンスサービスの充実

① レファレンスサービスの周知と利用促進

- ・ レファレンスサービスの利用を促進し、市民の課題解決を支援します。(全館)

② レファレンス事例集や調べ案内の作成と公表

- ・ 「調べ案内(パスファインダー)」などの提供内容を充実させます。(中央館)
- ・ 図書館のホームページ内「レファレンス事例集」の、掲載内容を充実させます。(中央館)

③ 課題解決に役立つ情報収集と活用力の育成支援

- ・ 図書館資料の検索講座等を実施し、市民の情報収集力・活用力の育成を支援します。(全館)

④ レファレンスサービス担当職員の研修

- ・ 定期的な研修を実施し、担当職員のレファレンス技術を向上させます。(中央館)

(2) だれもが利用しやすい図書館サービスの展開

① ライフステージにあった図書館サービスの提供

- ・ 地域の実情や世代別のニーズ等を考慮した図書館サービスを拡充するとともに、図書館未利用者に対する PR を強化することなどにより、図書館利用者を増やします。(全館)
- ・ 経営・就職関連資料の提供や、ホームページからの関連情報の発信等の、ビジネス支援サービスを強化します。(中央館) **拡充**
- ・ 子育て支援コーナーを設置し、子育て世代への情報提供を行います。(中央館) **新規**

② 図書館利用に障害のある利用者のためのサービス

- ・ 高齢者や、図書館利用に障害のある利用者に対するサービスを実施します。
 - * 郵送貸出 (中央館)
 - * 宅配サービス (地区館)
 - * 対面音訳 (中央・みやこ・花見川・稲毛・緑)
 - * 録音資料、点訳絵本の作成 (中央館)
- ・ 視覚障害者情報ネットワークに加盟し、録音資料を充実させます。(中央館) **新規**
- ・ より良い障害者サービスの実施のために、職員・音訳協力者向けの研修会や、点字体験の場を設けます。(中央館)
- ・ 図書館に来館することが困難な高齢者に対するサービスとして、高齢者施設への図書の貸出の事業化を推進します。(中央館)

③ 多文化サービス

- ・ 外国語資料の収集・提供等、多文化サービスを拡充するとともに、サービスの PR 等により利用を促進します。(中央館)

④ 資料提供方法の工夫

- ・ 閉館時の本の返却を終日可能にするため、ブックポストを設置します。
(美浜) **新規**
- ・ 図書館・公民館図書室以外での図書館資料の受け渡し場所の設置について、引き続き検討します。(中央館)
- ・ 地域の実情に即し、開館日等の見直しについて、引き続き検討します。(全館)

●平成 25 年度評価指標

No.	評価指標	H24 年度 実績	H25 年度 達成目標
2-1	レファレンス受付件数	87,525 件	対前年度比増
	サービスの PR を強化することなどにより、市民の一層の利用を促進し、対前年度比増を目指します。 ※市民から、図書館窓口・電話・メールにより、必要な資料について問い合わせを受けた件数 H21 : 76,110 件 H22 : 89,243 件 H23 : 87,009 件		
2-2	新規登録者数	20,648 人	対前年度比増
	転入市民や図書館未利用者への PR の強化等により、対前年度比増を目指します。 ※新たに登録した図書館利用者の数(公民館図書室での登録者を含む) H21 : 22,201 人 H22 : 21,046 人 H23 : 19,078 人		
2-3	来館者数	276.4 万人	対前年度比増
	未利用者への PR の強化や、魅力ある講座・企画展示の実施等により、対前年度比増を目指します。 ※館内での閲覧利用も含め、図書館に来館した利用者の延べ人数 H21 : 292.6 万人 H22 : 294.7 万人 H23 : 283.6 万人		
2-4	年間貸出利用者率	市民の 15%	対前年度比増
	利用の少ない層への利用促進を図り、対前年度比増を目指します。 ※1 年間に、図書館を利用した市民の割合(世代別・性別利用者統計も出し、利用者層を分析する) H21 : 市民の 16% H22 : 市民の 15% H23 : 市民の 14%		
2-5	図書館利用に障害のある方への情報提供	対面音訳件数 100 件 貸出冊数 8,705 点	対前年度比増
	デイジー図書の作成や、著作権法改正に伴い利用対象が拡大した録音資料の活用を図るとともに、サービスの PR を強化することなどにより、対前年度比増を目指します。 ※対面音訳による情報提供件数、貸出冊数(自宅配本・郵送貸出を含む) H21 : 対面音訳件数 112 件・貸出冊数 11,268 冊 H22 : 対面音訳件数 102 件・貸出冊数 9,221 冊 H23 : 対面音訳件数 127 件・貸出冊数 9,199 冊		

【方針 3】 図書館から積極的に情報を発信します

●平成 25 年度取組項目

(1) ホームページ等からの情報発信

① 図書館ホームページコンテンツの拡充

- ・ 利用者のニーズに適応した情報提供を行い、図書館の利用を促進するため、図書館ホームページを運営するとともに、コンテンツの拡充などにより積極的な情報発信を図ります。(全館) **拡充**

② 地域情報の発信と地域・行政資料サービス

- ・ 千葉市の地域・行政資料や地域情報等の千葉市関連資料を積極的に収集し、体系的に整理、保存して提供します。また、これらの情報をホームページ等から発信します。(全館)
- ・ 郷土資料をデジタル化し、活用します。(中央館) **新規**

③ インターネットの特性を活かした情報提供

- ・ ICT(情報通信技術)を活用した新たな情報提供サービスについて、引き続き検討します。(中央館)
- ・ 平成 24 年 7 月より新たに開始したソーシャル・ネットワーク・サービス「フェイスブック」による情報提供について、引き続き運営するとともに、情報発信内容の充実に努めます。(中央館)

(2) 出会いのある図書館利用の促進

① 講座や企画展示等による情報発信

- ・ 各種講座については、市民の関心の深いテーマを選定するとともに、関係機関との連携などにより、関連する企画展示を同時期に実施するなど、図書館の利用促進につながる内容とするため、さらなる工夫を図ります。
 - * 図書館市民講座 (全館)
 - * 郷土史講座、文学講座 (地区館)
- ・ 図書館資料の広がりや豊かさを実感してもらい、資料への関心と理解を促すため、企画展示を実施します。(全館)

② 図書館サービスについての情報発信

- ・ 図書館の利用を促進するため、出前講座をはじめとした地域での広報活動を積極的に展開します。
 - * 市政出前講座の受付(中央館)
 - * 著作権セミナーの開催(中央館)
- ・ 各種メディアを活用し、効果的な広報活動を実施します。
 - * 「図書館だより」の発行 (中央館)
 - * 「市政だより」へのお話し会イベント等の掲載 (全館)

●平成 25 年度評価指標

No.	評価指標	H24 年度 実績	H25 年度 達成目標
3-1	地域行政資料の収集冊数	4,027 冊	現状維持
	行政資料の紙媒体の発行点数は減少傾向にありますが、収集・保存方法を工夫することなどにより、現状維持を目指します。 ※千葉県、千葉県に関する資料の年間収集冊数(紙媒体) H21 : 4,712 冊 H22 : 4,485 冊 H23 : 4,950 冊		
3-2	一般向き図書館講座の開催回数及び参加者数	29 回 1,851 人	対前年度比増
	市民にとって魅力あるテーマ設定や PR 方法の工夫等により、対前年度比増を目指します。 ※一般市民を対象とした図書館講座等の開催回数及び参加者数 H21 : 27 回・1,682 人 H22 : 25 回・1,358 人 H23 : 22 回・1,676 人		

【方針 4】子どもの読書活動を推進します

●平成 25 年度取組項目

(1) 児童・青少年向けサービスの深化と拡充

① フロアワーク(読書相談・レファレンス)の充実

- 子どもが知的好奇心を満たすことのできる本と出会えるよう、資料の紹介や展示、相談等を行います。(全館)
* ブックリストの作成・配布 (全館)

② 読書環境の整備と充実

- YA コーナーをさらに充実させ、中・高校生の利用を促進します。(全館)
- 児童コーナーでもテーマを決めた企画展示を行い、絵本・お話の本だけでなく、科学などの読み物についても積極的に紹介し、子どもと本との出会いの場を演出します。(全館)

③ おはなし会等の実施

- 子どもの読書の関心を高めるため、おはなし会等を年齢別・対象別に実施します。
* 定例おはなし会 (全館)
* わらべうたと絵本の会 (全館)
* 子ども(高校生)が語るおはなし会 (全館)
* 親子おはなし会 (全館)

- ・ 工作や科学あそび等を通じ、絵本や文学以外の資料の紹介も行います。(全館)
 - ・ 子ども読書まつりを開催し、関係機関や学校、市民団体などとの連携により、魅力あるイベントを企画・実施します。(全館)
 - ・ 子どもたちが学校休業中やその前後に、身近な図書館で本や図書館に親しむためのイベントを実施します。
 - * 子ども一日図書館員 (地区館)
 - * こどもかるたあそび (中央・みやこ・花見川)
 - * 科学あそび・映画会・図書館クイズなど (全館)
- ④ 情報提供と講座、啓発事業の実施
- ・ 子どもの読書や図書館利用に関する一般向け講座や親子参加事業を開催します。
 - * 子ども読書講座 (中央館)
 - * 読み聞かせ講座・入門編 (中央館)、わらべうたと絵本講座 (地区館)
 - * 「子ども読書の日」記念事業 (全館)
 - * 親子図書館探検ツアー (中央館)
 - ・ 子ども向けの図書館資料検索講座等、子どもの図書館利用に関する啓発事業の実施について、引き続き検討します。(中央館)
 - ・ 図書館のホームページ内「こどものページ」の、掲載内容を充実させます。(全館)
- ⑤ 児童・青少年サービス担当職員の研修
- ・ 内部研修や派遣研修等を行い、担当職員の知識・技能を向上させるとともに、講師としても育成します。(全館)

(2) 学校・家庭・関係機関等との連携、協力

① 千葉市子ども読書活動推進計画の策定

- ・ 千葉市子ども読書活動推進計画(第2次)の推進及び進行管理を行います。(全館)
- ・ 子ども読書活動推進会議を開催・運営します。(中央館)

② 学校や教育機関との連携、協力

- ・ 学校と連携し、児童・生徒の図書館見学や職場体験を積極的に受け入れるとともに、図書館から学校に出向いて利用案内やおはなし会等も行います。
 - * 小中学校等の視察・見学、調べ学習受入 (全館)
 - * 職場体験受入(中学生) (全館)
 - * ブックトーク(学校訪問おはなし会) (地区館)
- ・ 市内小中学校に対し、図書館資料の団体貸出を行います。(中央館)
- ・ 教育センター等と連携し、教職員の社会体験研修受け入れ、図書館利用案内、学校図書館指導員研修への協力などを行います。(全館)

③ 家庭・地域との連携、協力

- ・ 子どもの読書活動推進を担う家庭・地域の団体等に対する図書の貸出と、活動への支援を拡充します。(全館)

- ・「千葉市図書館地域おはなしボランティア養成講座」を実施し、ボランティアを育成・補充するとともに、資質向上のための研修等を実施します。(全館)
- ・図書館で育成した地域おはなしボランティアの活動の場を拡充するとともに、地域団体等の依頼を受けて派遣します。(全館) **拡充**
- ・家庭での読書をすすめるため、「ファミリーブックタイム事例集」を発行します。(中央館)

④ 関係機関との連携、協力

- ・4か月児健康診査における読み聞かせの実演や研修に、職員及び地域おはなしボランティアを派遣することや、配布図書選書の検討に職員が加わることなどにより、ブックスタート事業に協力します。(全館)
- ・保育所・子どもルームなど子育て支援施設と連携・協力し、子どもの読書環境を豊かにしていきます。(全館)

●平成25年度評価指標

No.	評価指標	H24年度 実績	H25年度 達成目標
4-1	児童書の貸出冊数	123万冊	対前年度比増
	年齢と関心にあった資料の充実・提供や、YAコーナーの充実などにより、対前年度比増を目指します。 ※1年間に個人貸し出した児童書(絵本～中学生向き図書、雑誌、紙芝居)の冊数 H21：132万冊 H22：130万冊 H23：126万冊		
4-2	おはなし会等の開催回数及び参加者数	1,024回 22,055人	対前年度比増
	イベント内容にさらに工夫を加えることなどにより、対前年度比増を目指します。 ※図書館で行うおはなし会、絵本とわらべうたの会等の開催回数及び延べ参加者数 H21：1,028回・15,849人 H22：970回・20,683人 H23：898回・17,901人		
4-3	地域おはなしボランティア活動実施回数及び派遣人数	218回 583人	対前年度比増
	地域おはなしボランティアの活動の場を拡大することなどにより、対前年度比増を目指します。 ※地域おはなしボランティア活動の実施回数及び延べ派遣人数 H21：104回・483人 H22：181回・717人 H23：220回・673人		
4-4	学校等関連施設と連携事業を行った回数	406回	対前年度比増
	学校等に対して各種事業を積極的にPRすることなどにより、対前年度比増を目指します。 ※図書館見学、おはなし会、調べ学習、職場体験、学校での利用案内等の連携事業を行った回数 H21：385回 H22：374回 H23：419回		

4-5	団体貸出による児童図書の提供数	23,546 冊	対前年度比増
<p>学校、地域・家庭文庫等に対する団体貸出の利用の働きかけを強化することなどにより、対前年度比増を目指します。</p> <p>※団体貸出により千葉市の子どもたちが利用した図書の冊数 H21：19,606 冊 H22：20,723 冊 H23：23,094 冊</p>			

【方針 5】他の図書館や関係機関と連携、協力します

●平成 25 年度取組項目

(1) 図書館間協力の一層の推進

① 相互貸借等による資料提供

- ・ 図書館間の相互貸借等により、千葉市図書館に所蔵していない資料を市民に提供するとともに、他の図書館等を通じて千葉市図書館の資料を有効活用します。(全館)

② レファレンス、課題解決のための相互協力

- ・ 国立国会図書館の協同データベースに、引き続き千葉市の事例を掲載し、登録事例を増やしていきます。(中央館)
- ・ レファレンスサービスに関する相互協力を行います。(中央館)

③ 千葉市図書館情報ネットワーク協議会活動の推進

- ・ 千葉市図書館情報ネットワーク協議会加盟館の連携による資料の相互利用や企画展示などの事業を実施します。(中央館)

④ 研修・共同事業の実施

- ・ 他の図書館との協力による共同研修や共同事業を実施します。(中央館)
- ・ 「九都県市首脳会議 知識・情報資源としての図書館利活用研究会」に参画し、引き続き構成都県市の図書館との広域的連携を進めます。(中央館)

(2) 地域の生涯学習施設、公的機関、各種団体等との連携

① 生涯学習施設との連携事業の実施

- ・ 市内の生涯学習施設、教育機関、公的機関、類縁機関等と連携し、資料の収集や提供を行うとともに、各種事業の実施に際して相互に事業協力を行います。(全館)

② 教育機関や公的機関との連携、協力

- ・ 高等学校や大学、教育センター等教育機関との連携を図り、高校生、大学生、教員の図書館利用促進と、相互の資料活用について検討します。(中央館)

③ 庁内レファレンスによる情報提供

- ・ 庁内の職員に対して、業務遂行に必要な資料・情報を提供することなどにより、

行政サービスの向上を支援します。(中央館)

④ 市内類縁機関との連携

- ・ 千葉市内で、市民に資料貸出や閲覧を行っている施設との、連携や協力について引き続き検討します。(中央館)
- ・ 高齢者福祉施設と連携し、泉分館で大人向けおはなし会を実施します。(若葉)

●平成 25 年度評価指標

No.	評価指標	H24 年度 実績	H25 年度 達成目標
5-1	図書館間相互貸借資料数	借受 6,449 冊 貸出 6,765 冊	対前年度比増
	<p>他の図書館との協力を一層推進することにより、対前年度増を目指します。</p> <p>※他の図書館等との間で、千葉市図書館にない資料を借受した冊数と、千葉市図書館の資料を貸出した冊数 H21：借受 6,788 冊・貸出 6,237 冊 H22：借受 7,621 冊・貸出 6,230 冊 H23：借受 7,378 冊・貸出 5,697 冊</p>		
5-2	連携事業等実施数	343 件	対前年度比増
	<p>学校以外の機関等との連携を一層推進することにより、対前年度増を目指します。</p> <p>※学校以外の機関(保育所・公民館等)との連携により実施した、市民を対象とした事業の数 H21：196 件 H22：277 件 H23：317 件</p>		

【方針 6】 市民参加と協働による図書館づくりをめざします

●平成 25 年度取組項目

(1) 図書館活動への参加機会の提供

① ボランティアとしての活動参加

- ・ 「図書館サポーター(仮称)」制度など、図書館サービスにおける市民ボランティアの活動領域の拡大について、引き続き検討します。(中央館)

② 地域おはなしボランティア活動の推進

- ・ 地域おはなしボランティアを育成し、地域での活動を支援します。(全館)

③ 体験学習や実習の受け入れ

- ・ 大学生の司書課程実習やインターンシップ実習を受け入れます。(全館)
- ・ 中高校生や大学生の学生ボランティアの受け入れについて、引き続き検討します。(全館)

④ 図書館施設の市民活用

- ・ 図書館が地域の交流の場となるように、市民の企画・参加による事業を実施しま

す。(全館)

(2) 市民との協働による図書館づくり

① 図書館協議会の設置と開催

- ・ 公募による委員を引き続き登用し、図書館運営に多様な市民の意見を反映させます。(中央館)

② ともに創る図書館をめざす活動

- ・ 市政モニターや図書館ホームページからのアンケート調査等を行うことにより、図書館未利用者の意見等を把握し、図書館運営の改善に向けた基礎資料とします。(中央館)
- ・ 市民懇談会を実施します。(中央館)
- ・ 「中央図書館見学ツアー」を市民との協働により計画的に実施し、市民が図書館業務の現状や課題などに関する理解を深めるための機会を提供します。(中央館)

③ 図書館サービスの評価

- ・ 図書館利用者に対し、図書館利用アンケート調査を実施し、その結果を図書館サービスの向上に役立てるとともに、図書館サービスの評価に活用します。(全館)

●平成25年度評価指標

No.	評価指標	H24 年度 実績	H25 年度 達成目標
6-1	千葉市図書館利用アンケート調査(利用者満足度調査)における満足度	満足度 89.6%	現状維持
	満足度の達成目標は現状維持としますが、図書館サービスの一層の向上により、満足度の構成割合における「満足」の比率が増加することを目指します。		
	※千葉市図書館利用アンケートにおいて、市全体の図書館サービス満足度を、「満足」または「やや満足」と回答した利用者の割合 H22：満足 38.3%・やや満足 47.8%・計 86.1% H23：満足 37.9%・やや満足 53.1%・計 91.0% H24：満足 35.9%・やや満足 53.6%・計 89.6%		

【サービス推進のための経営資源について】

●平成 25 年度取組項目

図書館サービスに欠くことのできない「施設」「資料」「人」の 3 つの経営資源の充実に努めます

- ・ 図書館の安全性・快適性を確保するため、施設の点検や老朽化部分の改修を行います。(全館)
 - * 空調設備の全面改修工事 (みやこ)
 - * 昇降機の部品交換修繕 (みやこ)
 - * 非常用井戸のポンプ修繕 (みやこ)
- ・ 読書環境整備計画の策定
 良好な読書環境を整備するため、ICT の活用や施設の機能更新など、読書環境の整備にかかる計画を策定します。(中央館)
- ・ 図書資料費の有効活用により、図書資料を整備するとともに、引き続き図書資料費の確保に努めます。(全館)
- ・ 図書資料の整備に充てるための寄付金受入や募金箱の設置を引き続き実施するとともに、広告料の収入増を図り、資料費の確保に努めます。(全館) **拡充**
- ・ 接遇研修の実施や接客マナーの徹底等により、「身近で頼れるみんなの図書館」としてのサービス向上につなげます。(全館) 《方針 1(1)④再掲》
- ・ 図書館サービスをはじめ、行政分野や地域の課題にも精通し、高度で的確なサービスを提供できる専門職員の確保と育成に努めます。(中央館)

●平成 25 年度評価指標

No.	評価指標	H24 年度 実績	H25 年度 達成目標
7-1	司書資格を有する職員の割合	48.9% (正規職員 26.3%) (嘱託職員 94.8%)	対前年度比増
司書資格を有する正規職員の配置を要望することなどにより、対前年度比増を目指します。 ※千葉市図書館の職員(正規職員及び嘱託職員)のうち、司書資格を有する職員の割合 H21 : 54.3% (正規 29.6% 嘱託 95.7%) H22 : 54.6% (正規 30.2% 嘱託 95.7%) H23 : 52.9% (正規 27.7% 嘱託 97.1%) (注) H21 : H22.4.1 現在 H22 : H23.4.1 現在 H23 : H24.4.1 現在 H24 : H25.4.1 現在			

開館日・開館時間の拡大について

今年度は、職員は出勤しており新たな経費が発生しない1月4日の午後からの開館及び蔵書点検期間の短縮を実施することとした。

1 1月4日の午後からの開館について

これまで、1月4日については、年末年始の休館中（12月29日～1月3日）に溜まった返却本やインターネット予約等の処理のため、丸1日休館していたが、出勤体制や処理手順の見直し等により、午後から開館できる見込みとなったことから、平成26年1月4日（土）の午後1時から試行的に開館することとした。

2 特別整理期間（蔵書点検）の短縮について

これまで、特別整理期間として蔵書点検を7日間で行ってきたが、月曜日の休館を含めると連続8日間の休館となり、さらに、地区館や分館では、年によっては祝日も重なり9日間の連続した休館となる場合もあった。

こうした、長期間の休館をできるだけ短縮するため、清掃作業を毎月第3木曜日の図書整理日に実施するなどの工夫により、今年度は期間を2日短縮し5日間で行うこととする。

また、これまでは毎年実施していたが、蔵書点検の結果判明した不明本の数も比較的少ないことから、サイクルを2年に1回とする。

これらにより、平均すると年間1館当たり5日開館日が増えることとなり、図書館の1日の来館者は約1万人であることから、単純計算で年間約5万人の来館者増が見込める。